はじめに

このたびは、弊社製MVK-S513/BPC-Mシリーズをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
このマニュアルは、MVK-S513/BPC-Mシリーズの取扱い方法や組立方法、注意事項などを説明したものです。
ご使用、組立ての前に、必ずこのマニュアルをお読みください。なお、お読みになった後も本書はいつもお手元に置いてご使用ください。

■版権

■免責

本書の内容に関しては、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点があれば、販売店または(株)メルコインフォメーションセンターまでお問い合わせください。
また上記に関わらず、以下の事柄については(株)メルコはいっさい責任を負いません。
(1) 本製品に付随する、または運用の結果もたらされたいかなる損害。
(2) 本製品によりもたらされるべき、直接的、間接的な効果および利益の損失。
(3) 本製品のために費やした時間、経費
(4) (株)メルコの責任によらない製品の損傷、破損、または改造による故障や不具合など。
(5) 本製品をお使いになって生じたいかなる結果及び、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常。
(株)メルコは、製品および本書を改訂し、随時その外観・内容のすべてを変更する権利を有します。またその際に、改訂または変更をいかなる個人または団体に対して通知する義務を負いません。

■商標

本書に記載されている他社商品名は、それぞれの製造及び販売会社の商標または登録商標となっている場合があります。
本書に他社商品名が記載されている場合、参考を目的としたものであり、(株)メルコはそれらの商品の使用を強制あるいは推奨するものではありません。

また、(株)メルコは、それらの他社商品の性能または運用についていっさい責任を負いません。

■日本国外への持ち出しについて

- 本製品の内、戦略物資または役務に該当するものの日本国外への持ち出しに際しては、外国為替法に基づく輸出許可または役務取引許可が必要です。
- 本製品は、日本国内でのみ使用されることを前提として設計・製造されています。

本製品を日本国外で使用された場合の運用結果については、(株)メルコはいっさい責任を負いません。また(株)メルコは、本製品に関して海外での保守サービス及び技術サポートは行っておりません。

■落丁・乱丁について

本書に落丁や乱丁があった場合はお取り替えいたします。販売店または(株)メルコインフォメーションセンターまでご連絡ください。

■ユーザー登録はがきの作成

ユーザー登録はがきに必要事項をご記入のうえ、郵送してください。弊社製品の正式ユーザーとして登録させていただきます。ユーザー登録がない方は、サポートやバージョンアップなどのサービスを受けることができません。必ずユーザー登録を行ってください。

■製品の保証とサービス

本製品には、保証書がついています。内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

- 保証期間と保証規定については、製品に同梱された保証書を参照してください。
- 修理の依頼について

修理を依頼される場合は、(株)メルコ修理センターにご依頼ください。修理センターの連絡先などについては「修理について」をお読みください。
メルコ製品に関するご質問、ご相談は次ページの「本製品に関するお問い合わせ」をお読みください。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

本書「安全にお使いいただくために必ずお守りください」には、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を記載しました。ご使用の前に、本書と取扱説明書を必ずお読みになり、内容をよく理解された上でお使いください。

お読みになった後は、必ずお手元に置き、常に参照できるようにしてください。

なお本書には、弊社製品だけでなく、弊社製品を組み込んだパソコンシステム運用全般に関する注意事項も記載されています。また、製品のマニュアルと重複する内容も含まれています。

本書に使われている表示と絵記号の意味

■警告表示の意味■

⚠ 警告	この表示の注意事項を守らないと、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示の注意事項を守らないと、使用者がけがをしたり、物的障害の発生が考えられる内容を示しています。

■絵記号の意味■

△	△は、警告、注意を促す記号です。△の中や近くに、具体的な警告内容（例： 感電注意）が描かれています。
⃠	○に斜線は、してはいけない事項（禁止事項）を示す記号です。○の中や近くに、具体的な禁止事項が描かれています。（例： 分解禁止）
●	●は、しなければならない行為を示す記号です。●の中や近くに、具体的な指示内容（例： プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

 警告



本製品の分解や改造はしないでください。火災や感電の恐れがあります。



電源プラグを抜く

煙が出たり変な臭いや音がしたら、すぐに電源 スイッチを切り、ACコンセントからプラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり感電する恐れがあります。弊社インフォメーションセンターまたはお買い求めの販売店にご相談ください。



電源プラグを抜く

本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり感電する恐れがあります。弊社インフォメーションセンターまたはお買い求めの販売店にご相談ください。



禁止

AC100V(50/60Hz)以外のACコンセントには、絶対にプラグを差し込まないでください。

海外などで異なる電圧で使用すると、ショートしたり、発煙、火災の恐れがあります。



禁止

電源ケーブルを傷つけたり、加工、過熱、修復しないでください。

火災になったり、感電する恐れがあります。

- 設置時に、電源ケーブルを壁やラック(柵)などの間にはさみ込んだりしないでください。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしないでください。
- 熱器具に近付けたり、過熱しないでください。
- 電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
- 極端に折り曲げないでください。
- 電源ケーブルを接続したまま、機器を移動しないでください。

万一、電源ケーブルが傷んだら、弊社インフォメーションセンターまたはお買い上げの販売店にご相談ください。



強制

電源ケーブル(またはACアダプタ)、信号ケーブルは必ず本製品付属のものをお使いください。

本製品付属以外の電源ケーブル(内部接続用含む)、ACアダプタ、信号ケーブルをご使用になると、電圧や端子の極性が異なることがあるため、発煙、発火の恐れがあります。

 警告



強制

本製品の取り付け／取り外しをするときは、本製品およびパソコン、周辺機器の電源スイッチを切り、プラグをACコンセントから抜いてください。

電源ケーブルがコンセントに接続されたまま取り付け／取り外しを行うと、感電の原因となります。



強制

ケース内部で作業するときは、必ずパソコンの電源をOFFにして電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜き、CPUの温度が下がったことを確認してから作業してください。

パソコンの使用直後はCPUが高温になっているため、手を触れるとやけどする恐れがあります。



電源プラグを抜く

電源プラグは、ACコンセントに完全に差し込んでください。

差し込みが不完全なまま使用すると、ショートや発熱の原因となり、火災や感電の恐れがあります。



水場での使用禁止

液体や異物などが内部に入ったら、電源スイッチを切り、ACコンセントからプラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。弊社インフォメーションセンターまたはお買い求めの販売店にご相談ください。



強制

風呂場など、水分や湿気が多い場所では、本製品を使用しないでください。

火災になったり、感電する恐れがあります。



電源プラグを抜く

小さな子どもが電気製品を使用する場合には、本製品の取扱方法を理解した大人の監視、指導のもとで行うようにしてください。



強制

電気製品の内部やケーブル、コネクタ類に子どもの手が届かないように機器を配置してください。

子どもがさわってけがをすると危険です。

 警告



禁止

電源ケーブルがACコンセントに接続されているときには、濡れた手で本製品に触らないでください。

感電の原因となります。



強制

静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属(ドアノブやアルミサッシなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

人体などからの静電気は、本製品を破損させる恐れがあります。



強制

ハードディスク内のデータは、必ず他のメディア(フロッピーディスク、MOディスクなど)にバックアップしてください。

特に修復、再現ができない重要なデータ(顧客データ、財務データ、人事データ、その他あなたにとって重要なデータ)は、オリジナルの更新前、更新後と、常に2重のバックアップを作成されることをおすすめします。

以下のような場合に、データは消失、破損する恐れがあります。

- **誤った使い方をしたとき。**
- **静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき。**
- **故障・修理などのとき**
- **パソコンの電源OFF直後にすぐ電源を入れたとき**
- **長時間使っていなかったために電池が自然放電したとき**
- **天災による被害を受けたとき**

上記の場合、またその他いかなる場合でも、ハードディスク内のデータが消失、破損したことによる損害については当社は一切責任を負いません。あらかじめご了承ください。



強制

ソフトウェアをインストールする、ハードウェアを取り付ける・取り外すなど、お使いのパソコン環境を少しでも変更するときは、変更の前に必ずハードディスクのバックアップを作成してください。

誤った使い方をしたり、故障などが発生してデータが消失、破損したときなど、バックアップがあれば被害を最小限に抑えることができます。

データが消失、破損したことによる損害については当社は一切責任を負いません。あらかじめご了承ください。



警告



禁止

ハードディスク、MO、フロッピードライブなどデータ格納用機器へのアクセス中は、パソコンや機器の電源をオフにしたり、リセットしないでください。

データが消失、破損する恐れがあります。データが消失、破損したことによる損害については当社は一切責任を負いません。あらかじめご了承ください。



禁止

アプリケーションソフトの動作中に電源を切ったり、リセットしないでください。

データが消失、破損する可能性があります。データが消失、破損したことによる損害については、当社は一切責任を負いません。あらかじめご了承ください。



禁止

次の場所には設置しないでください。感電、火災の原因となったり、製品やパソコンに悪影響を及ぼすことがあります。

- **強い磁界が発生するところ**
  故障の原因となります。
- **静電気が発生するところ**
  故障の原因となります。
- **震動が発生するところ。**
  けが、故障、破損の原因となります。
- **平らでないところ**
  転倒したり、落下して、けがや故障の原因となります。
- **温度・湿度がパソコンのマニュアルが定めた使用環境を超える、または結露するところ**
  故障の原因となります。
- **直射日光が当るところ**
  故障や変形の原因となります。
- **火気の周辺、または熱気のこもるところ**
  故障や変形の原因となります。
- **漏電の危険があるところ**
  故障や感電の原因となります。
- **漏水の危険があるところ**
  故障や感電の原因となります。

お手入れについて

本機を快適にお使いいただくために、定期的なお手入れをおすすめします。



お手入れの際は、必ず本機ならびに本機に接続した機器の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

本体・キーボード

●日常のお手入れ

本体の表面が汚れたときは、柔らかい清潔な布やティシューペーパーで拭き取ってください。

本体内部やキーボードのキーの隙間にゴミが入ったり、ほこりがたまったときは、本体やキーボードに傷をつけないように気をつけながら、掃除機などで吸い取ってください。

●汚れがひどい場合

汚れがひどいときは、水または、中性洗剤を薄めた水に浸して固く絞った柔らかい布で拭き取ってください。その後、乾いたきれいな布で拭いてください。



水や中性洗剤等の液体などを、本体やキーボードに直接かけないでください。故障する恐れがあります。



シンナー・ベンジン等の有機溶剤は、絶対に使用しないでください。外装を傷めたり、故障する恐れがあります。

●電源プラグ

電源プラグをコンセントに長期間差し込んだままにすると、ほこりがたまり、放電などによる事故の原因になることがあります。定期的に電源プラグを抜いてほこりやよごれをふき取ってください。

●液体をこぼしてしまった場合

・ キーボードに、水、コーヒー、ジュースなど粘度の低い液体をこぼした場合、裏返して中に入った液体を出してから、完全に乾燥させてください。

・ 油分や糖分などを含む粘度の高い液体をこぼした場合、すぐに乾いた布・綿棒等で拭き取ってください。



必ずコンピュータの電源をオフにしてから行ってください。

液晶ディスプレイ

●日常のお手入れ

液晶画面の表面が汚れたときは、柔らかい清潔な布やティシューペーパーで拭き取ってください。

液晶画面以外のディスプレイ本体外側の手入れ方法は、パソコン本体と同じです。

●汚れがひどい場合

液晶画面の汚れがひどいときは、水に浸して固く絞った柔らかい布で拭き取ってください。その後、乾いたきれいな布で拭いてください。液晶画面には洗剤を使用しないでください。

本体の画面以外の部分は、パソコン本体の手入れ方法と同じです。



水や中性洗剤等の液体などを、液晶ディスプレイに直接かけないでください。故障する恐れがあります。



シンナー・ベンジン等の有機溶剤は、絶対に使用しないでください。外装を傷めたり、故障する恐れがあります。

マウス

●日常のお手入れ

乾いたきれいな布で拭いてください。

●汚れがひどい場合

きれいな布に、水か中性洗剤を含ませ、かたくしぼってから汚れを拭き取ってください。

●定期的にするお手入れ

マウス内部のボールやローラーが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。ボールとローラーに水、油、ゴミ等が付着すると、動きが悪くなったり、故障の原因となります。そうなる前に、以下の手順でボールとローラーのクリーニングを行ってください。



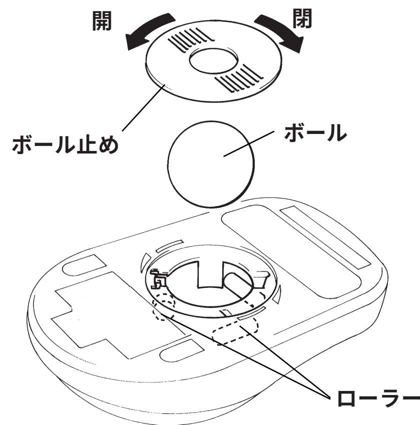
① マウス裏側のボール止めを、左回転させ取り外します。

② ボールを落とさないように取り出し、中性洗剤で洗い流します。乾いた布で拭き取り、乾燥させます。

③ マウス内部のローラーについた汚れを、綿棒の先で清掃してください。汚れが落ちない場合は、アルコールを湿らせて清掃してください。

④ ボール、ローラーを乾いた柔らかい布で拭き、マウス内部に軽く息を吹き込み、ホコリを取り除いてください。

⑤ ボールをマウスに入れ、ボール止めを切り欠きに合わせ、取り付けてください。





必ずコンピュータの電源をオフにしてから行ってください。



マウスは精密な機器です。取り扱いは慎重に行ってください。



シンナー・ベンジン等の有機溶剤は、絶対に使用しないでください。外装を傷めたり、故障する恐れがあります。



金属ブラシ・カッター・ヤスリ等の硬いものでの清掃は、絶対にしないでください。外装をいためたり、故障する恐れがあります。

本製品に関するお問い合わせ

インターネット

弊社では、インターネットによる新製品情報、Q&Aサービス、会社案内、求人情報などを提供しております。ぜひ、ご利用ください。

＜WWWサーバアドレス＞　**http://www.melcoinc.co.jp/**
http://www.melcoinc.com/
（ミラーサーバ）

BBS

弊社では、以下の商用BBSにて、新製品情報、Q&A、ドライバソフトウェアなどを提供しております。ぜひ、ご利用ください。

NIFTY-serve MELCO Station　**(GO SMELCO)**
PC-VAN MELCO情報ステーション　**(J MELCO)**

FAX情報センター

さらに詳しい使い方やトラブル対策など、（株）メルコ製品についての様々な最新情報をファクシミリで24時間提供しています。ぜひご利用ください。使い方は以下のとおりです。

必ず受け取りたいファクシミリから操作してください。

① ファクシミリの受話器をあげて、052-614-6911をプッシュしてください。
② 音声案内に従ってBOX番号と#をプッシュします。はじめてお使いになるときは、0010（全BOX一覧）を引き出します。0010#をプッシュしてください。最大5BOXまで続けて選択できます。
③ 音声案内に従って、ファクシミリのスタートボタンを押してください。即座にお手元に情報が届きます。

メルコインフォメーションセンター

〒457　名古屋市南区柴田本通4-15　（株）メルコハイテクセンター内

【東京】　**03-5350-7871**
月曜日～金曜日（祝日を除く）
9:30-12:00／13:00-21:00
土曜日・祝日（日曜日を除く）
9:30-12:00／13:00-17:00

【名古屋】052-619-1792
土曜日・祝日（日曜日を除く）
9:30-12:00／13:00-17:00

※電話番号のおかけ間違いがないよう、ご注意ください。

お問い合わせの時はメモ用紙・ペン等を用意し、下記の項目をお調べの上連絡してください。

1　本製品のスイッチ設定
2　メルコ製品名とシリアルナンバー
3　本製品のシリアルナンバー
4　併用している周辺機器名
5　使用しているアプリケーションソフト名
6　具体的なエラーメッセージ

本書の構成

本書は、ベアキットMVK-S513と、ミニコンポBPC-Mシリーズの両方の機種について取り扱い方法、注意事項、組立方法などを説明しています。
本書の構成は以下の通りです。

1.ご使用の前に

システム構成、梱包内容、各部名称など、組立や使用を開始する前に知っておいていただきたいことや行うことを説明しています。

2.接続方法

パソコンと周辺機器との接続方法と接続時の注意事項、接続してから電源をオンにする前に行う作業を説明しています。

3.起動とセットアップ

パソコンの使用を開始するのに必要なセットアップなど準備作業と、起動、終了、アプリケーションソフトの起動方法など、日常の使用方法と、Windows95に関するトラブルへの対処方法を記載しています。

4.システムの組立と拡張

MVK-S513の組立やBPC-Mのシステム拡張に必要な情報と、組立方法、OSのインストール、ディスプレイやLANボードドライバのインストール方法を説明しています。

5.BIOSのセットアップ

CMOS設定の画面と設定方法を解説しています。

6.資料

「仕様」、「トラブルシューティング」、「故障について」などの資料を記載しています。

BPC-Mシリーズをお使いの方

本書の1章から3章までを順にお読みください。4、5章はハードウェアの追加などシステムを拡張したときにお読みください。
6章は必要に応じて、お読みください。

MVK-S513をお使いの方

本書1章をお読みいただいた後、4章を読んでシステムを組み立ててください。その後、2章、3章の順にお読みください。
6章は必要に応じて、お読みください。
ネットワークをご利用の場合には、別冊「LAN セットアップガイド」をご覧ください。

本書に使われている絵記号の意味

本書では、説明をわかりやすくするために、安全のための絵記号と別に、以下のような絵記号を使用しています。

絵記号の意味



本文に述べられている事柄に関するヒントや補足説明を示しています。



操作手順の説明であることを示しています。



関連ある項目やページの参照を示しています。

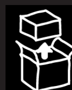
目次







1. ご使用の前に





特徴

MVK-S513は、マザーボード、CPU、フロッピーディスクドライブなど必要最小限の機器で構成される省スペースタイプのベアキットです。メモリ、ハードディスクをはじめ、液晶ディスプレイ（以降LCDと表記）やキーボード、マウスはすべてオプションです。ミニコンポBPC-Mシリーズは、MVK-S513相当の省スペースタイプのパーソナルコンピュータ本体、マウス、キーボードに、お客様のご指定により、メモリ、ハードディスク、LCDなどのハードウェアを組み合わせて、オリジナルなシステム構成でお届けするコンポーネントスタイルのコンピュータシステムです。Windows95プリインストールモデルも用意しています。
両機種共通の主な特長は以下のとおりです。

・省スペース

本体は290×225×54mm，ほぼA4サイズ相当。
本体は縦置き、横置き可能。LCDは設置面積の小さいフォトスタンドを採用し、設置面積が格段に小さくなりました。どんなデスクの上でもこれまでのように場所をとりません。

・AMD AM5x86-P75（133MHz）

CPUは、Pentium 75MHz相当のAMD 5x86-P75（133MHz）を搭載。

・表示機能

64ビットウィンドウ・アクセラレータを内蔵し、2MBのVRAMを実装しています。CRT単体での使用時に最大1280×1028ドット256色カラー表示。LCD、CRTを同時に使用可能です。LCDとCRTの2台のディスプレイでひとつの画面を表示するマルチディスプレイ機能を装備しています。

・LANアダプタ

弊社製LCI相当の10BASE-Tインターフェースを内蔵しています。LANへの接続は、付属のドライバをインストールしてケーブルで接続するだけです。

・拡張性・発展性

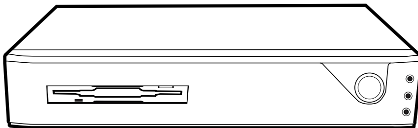
2本のメモリスロットには、増設RAMボードを1本単位で、最大64MBまで内蔵可能です。ISAバススロットを1本装備しています。

機器構成と梱包内容の確認

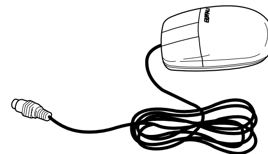
BPC-Mシリーズ

ミニコンポBPC-Mシリーズの機器構成とパッケージに梱包されている内容は以下の通りです(BPC-MS31DWの例)。
パッケージ内容はご注文いただいたシステム構成により異なりますので、以下の★印の機器はパッケージに含まれない場合があります。
システムの構成内容は、パッケージ外箱ならびに、別紙「はじめにお読みください」に記載しています。

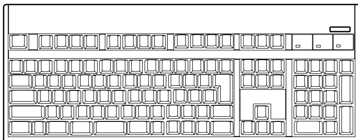
本体　1台
電源、CPU、マザーボード、フロッピードライブ、メモリ、ハードディスクが内蔵されています。



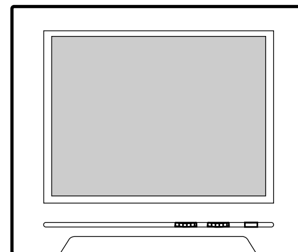
マウス　1個
PS/2タイプの3ボタンマウスです。



キーボード　1台
DOS/V標準またはDOS/V標準小型Windows95対応109キーボードです。



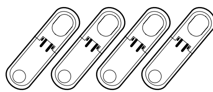
LCD　1台(★)
11.3インチのDSTNタイプまたは12.1インチTFTタイプの液晶ディスプレイです。



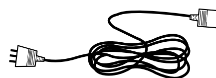
LCDケーブル　1本(★)

アクセサリ　1セット

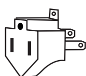
スタンド4個1組、



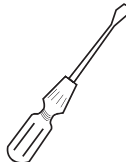
ACケーブル



3P-2P変換アダプタ



マイナスドライバ(★)



ソフトウェア(3.5インチフロッピーディスク)

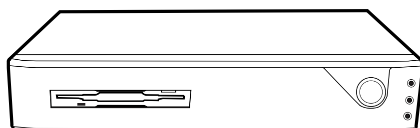
ディスプレイドライバディスク	1枚
FTDシリーズドライバディスク(Windows95用)	
Windows95	
CD−ROMセットアップ起動ディスク	1枚
Windows95システム(CD−ROM)	1枚
マニュアル	
はじめにお読みください	1部
Windows95ファーストステップガイド	1冊
MVK-S513/BPC-Mシリーズユーザーズマニュアル	本書
保証書／ユーザ登録はがき	1通



MVK-S513

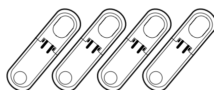
ベアキットMVK-S513を構成する機器は以下の通りです。
パッケージに梱包されている内容を確認しながらご覧ください。
万一パッケージ内容に不足しているものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

本体　　1台
電源、CPU、マザーボード、フロッピードライブが内蔵されています。
メモリ、ハードディスクはオプションです。別途ご用意ください。

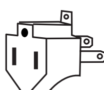


アクセサリ　　1セット

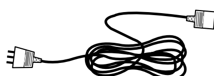
スタンド4個1組



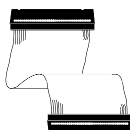
3P-2P変換アダプタ



ACケーブル



HDDケーブル



HDD取付金具

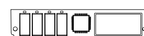


ネジ(ユニファイネジ×7)



オプション機器構成
MVK-S513を動作させるには、最低限以下の機器が必要です。別途ご用意ください。

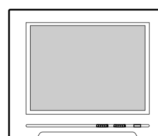
メモリ(増設RAMボード)



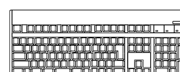
ハードディスクドライブユニット(HDD)



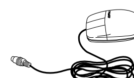
ディスプレイ



キーボード



マウス



詳しくは「4.システムの組立と拡張」「必要なハードウェア」(P.44)をご覧ください。

ソフトウェア(3.5インチフロッピーディスク)
- ディスプレイドライバディスク　2枚
  - FTDシリーズドライバディスク(Windows95用)
  - FTDシリーズドライバディスク(Windows3.1用)
- LANドライバディスク　3枚
  - LAN Boardユーティリティ for LCI(DOS/V)
  - 簡単WEBプログラムディスク for LCI(DOS/V)
  - NetWare4.1クライアント for DOS/V

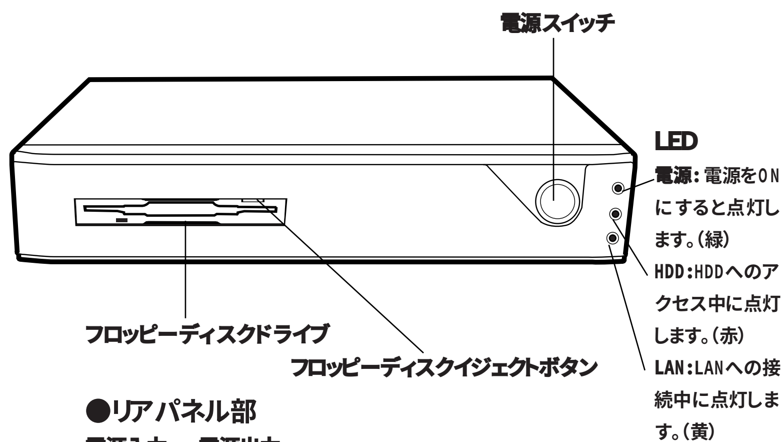
マニュアル
- MVK-S513/BPC-Mシリーズユーザーズマニュアル　本書
  - LANセットアップガイド for DOS/Windows3.1　1冊

保証書／ユーザ登録はがき　1通

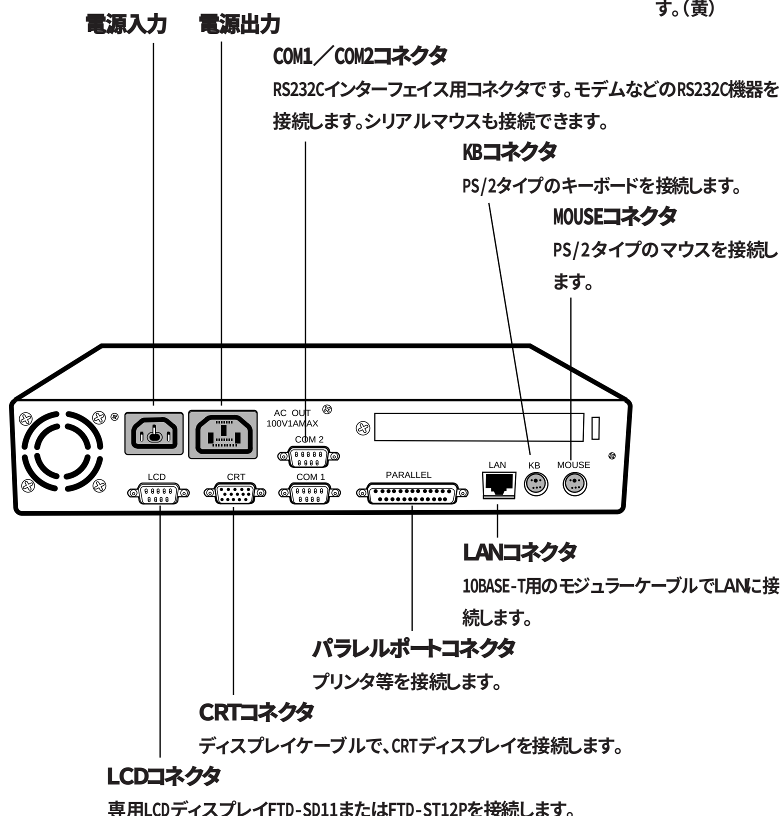
各部の名称とはたらき

本体

●フロントパネル部



●リアパネル部



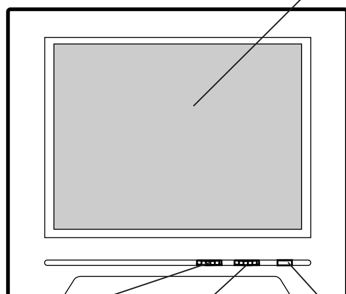
本体内部の各部の名称とはたらきは、「4.システムの組立と拡張」−「ケース内部各部の名称」（P.47）をご覧ください

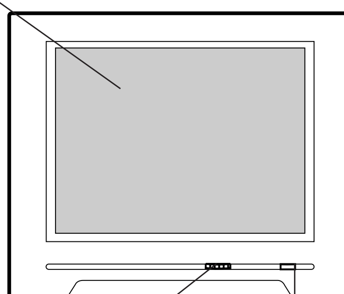


ディスプレイ

●DSTN液晶ディスプレイ
（11.3インチ）

●TFT液晶ディスプレイ
（12.1インチ）





輝度調整つまみ
画面表示の明るさを調節します。

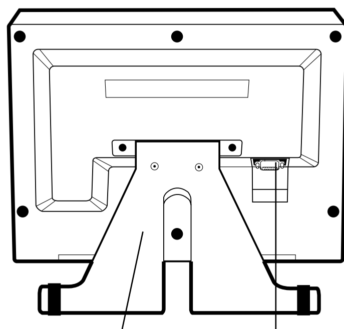
コントラストつまみ
画面表示のコントラストを調節します。

バックライトスイッチ
バックライトのON/OFFを行います。

輝度調整つまみ
画面表示の明るさを調節します。

バックライトスイッチ
バックライトのON/OFFを行います。

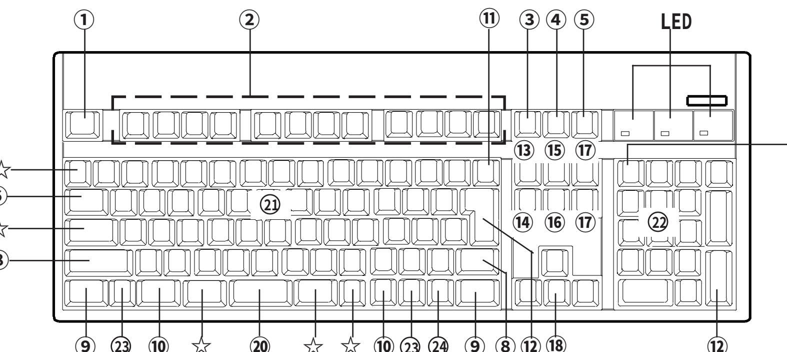
●リアパネル
（DSTN・TFT共通）



スタンド

ディスプレイコネクタ
付属のケーブルでパソコンと接続します。
コネクタは付属のマイナスドライバで完全に固定されるまでネジ止めしてください。

キーボード





注意

キーの役割は、使用するオペレーティングシステムやアプリケーションソフトにより、異なる場合があります。使用するオペレーティングシステムやソフトウェアでご確認ください。

① **Esc : エスケープキー**

現在のコマンド行または操作をキャンセルします。

② **F1〜F12 : ファンクションキー**

アプリケーションソフトで特殊な働きをします。

③ **Print Screen : プリントスクリーンキー**

画面に表示された内容をプリンタ出力します。

Sys Rq : システムリクエストキー

System Request機能を生成します。Altと組み合わせる。

④ **Scroll Lock : スクロールロックキー**

画面のスクロールを制御します。

⑤ **Pause : ポーズキー**

実行中の操作を一時中断します。

Break : ブレイクキー

実行中の操作を中断します。Ctrlと組み合わせる。

⑥ **Tab : タブキー**

タブ間の移動。

⑦ **Caps Lock : キャップスキー**

Shift+Caps Lockで英文字を小文字入力から大文字入力にする。

⑧ **Shift : シフトキー**

他のキーと組み合わせて使用します。

⑨ **Ctrl : コントロールキー**

他のキーと組み合わせて使用します。

⑩ **Alt : オルタネートキー**

他のキーと組み合わせて使用します。

ご使用の前に



⑪ **Back Space ： バックスペースキー**

カーソルの左側の1文字を消します。

⑫ **Enter ： エンターキー**

入力を終了するか、またはコマンドを実行します。

⑬ **Insert ： インサートキー**

挿入モードのON/OFFの切り替えをします。

⑭ **Delete ： デリートキー**

文字を消します。

⑮ **Home ： ホームクリアキー**

カーソルの位置を制御します。

⑯ **End ： エンドキー**

カーソルの位置を制御します。

⑰ **PageUp ： ページアップキー**

カーソルの位置を制御します。

PageDown ： ページダウンキー

カーソルの位置を制御します。

⑱ **↑↓←→ ： カーソル移動キー**

矢印の方向にカーソルを移動します。

⑲ **NumLock ： ナンバーロックキー**

数値／矢印キーの機能を数値入力から位置制御にします。

⑳ **スペースキー**

空白文字を入力します。

㉑ **文字キー**

英数字、記号および日本語変換プログラムを利用した日本語を入力します。

㉒ **数値キー**

数字、演算子などを入力します。NumLock設定により、機能キーの働きもします。

㉓ **Windowsキー**

Windows95専用キーです。

次ページの「windows95専用キーの操作」参照

㉔ **アプリケーションキー**

Windows95専用キーです。

次ページの「windows95専用キーの操作」参照

☆ **日本語入力キー ：**

日本語を使用するための機能を持つキーです。

Windows95専用キーの操作

Windowsキーとアプリケーションキーは、Windows95専用のキーです。次のようにご使用ください。

Windowsキー

キーの組み合わせ	Windows95での機能
[Windows]	スタートメニューの起動
[Windows]+[F1]	選択されているオブジェクトのポップアップメニューを表示
[Windows]+[Tab]	次のタスクバーボタンをアクティブにする
[Windows]+[E]	エクスプローラーの起動
[Windows]+[F]	ファイル検索画面の起動
[Windows]+[Ctrl]+[F]	コンピュータ検索画面の起動(ネットワークなどで使用)
[Windows]+[M]	全ウィンドウを最小化する
[Windows]+[Shift]+[M]	最小化する前の状態に戻す([Windows]+[M]の逆)
[Windows]+[R]	ファイル名を指定して実行
[Windows]+[Pause]	システムプロパティ画面の起動

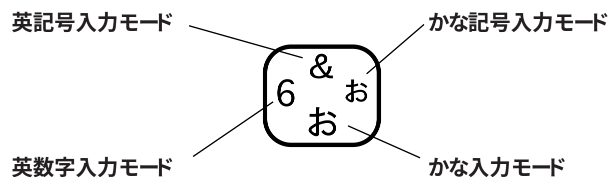
アプリケーションキー

アプリケーションキーを単独で押すと、コンテキストメニュー(ポップアップメニュー)を表示します。詳しくは、Windows95対応ソフトのマニュアルを参照してください。

文字入力のしかた

文字キーには、2〜4個の文字や記号が印刷されています。どの文字が入力されるかは、入力モードにより変わります。

●標準サイズキーボード

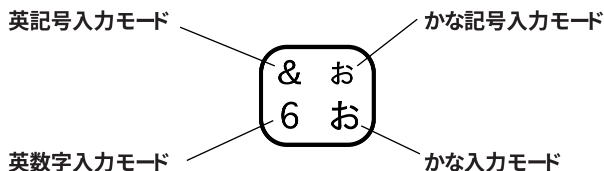






注意
英記号入力モードの“～”キーを押しても何も表示されません。“～”を入力するときは、その２つ右の“－”キーを押してください。なお“－”は入力できません。これは、DOS/Vの仕様によるものです。

●小型キーボード



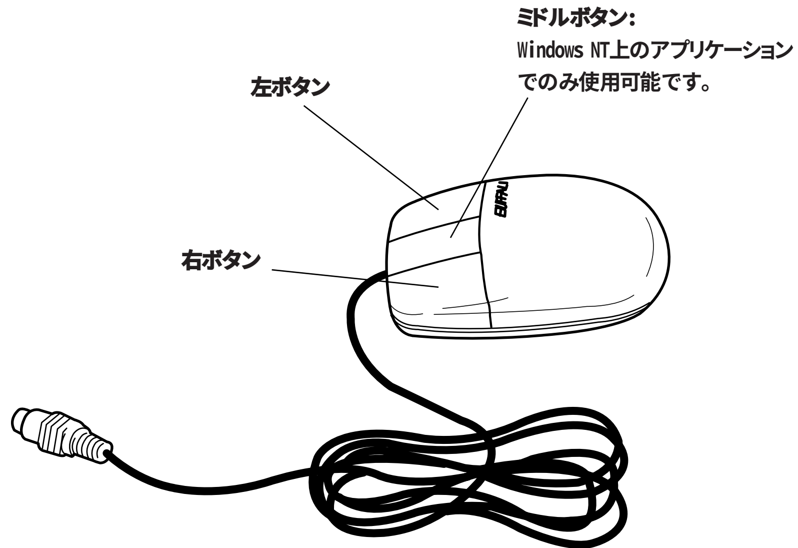
英数字入力モード	そのまま押して入力します。
英記号入力モード	[Shift]キーを押しながら文字キーを押します。英文字が印刷されている場合は、英文字の大文字・小文字が入れ替わって入力されます。[Shift]＋[Caps Lock]で大文字入力となります。
かな入力モード	かな入力モードで半角カタカナやひらがなを入力するときは日本語入力IMEが必要になります。[Alt]＋[半角／全角]を押しローマ字入力します。キーのかな文字を直接入力するときは、かな入力に設定します。IMEのマニュアルを参照してください。
かな記号入力モード	かな入力モードの状態で、[Shift]を押しながら文字キーを押します。



注意

- ほこりや消しゴムのかすなどのある所で使わないでください。
- マウスを分解しないでください。（ネジをはずさない）
- 机の上など、平で安定した所で使用してください。
- マウスに、水、コーヒー、ジュース等の液体を絶対にかけないでください。かけてしまった場合はすぐにパソコンの電源を切り、「お手入れのしかた」を参照し、マウスをきれいにしてください。

マウス



2.接続方法



接続



接続作業を行うときには、必ず電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。



注 意

プラグをコネクタに差し込む時には、むりな力を加えないでください。
正しい向き、角度で差し込めば無理なく差し込めるようになっています。
どうしても差し込めないときは、次の点を確認してください。

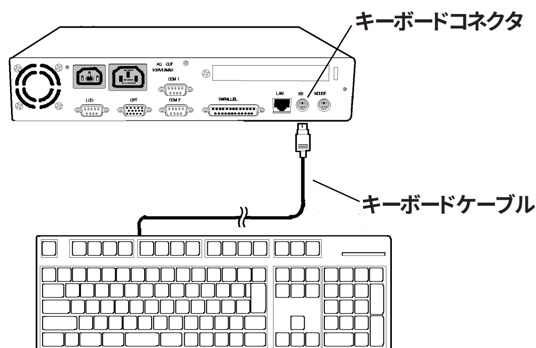
・コネクタのピンと穴の向きが合っているか確認してください。
・正しいプラグを使用しているか。本機にはPS/2タイプ(ミニDIN6P)のキーボード、マウスをお使いください。

キーボードの接続



キーボードケーブルのプラグを、本体のキーボードコネクタに差し込みます。

キーボードコネクタは、本体リアパネルの「KB」と表記されたコネクタです。キーボードケーブルのプラグの矢印マークが、本体の「KB」と表示されている側になるように差し込んでください。

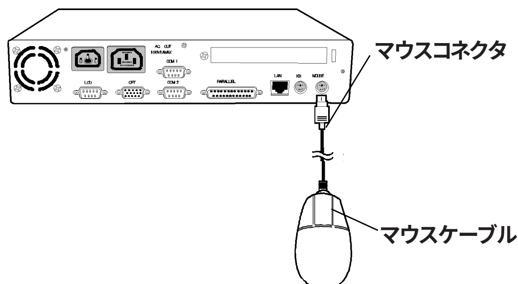


マウスの接続



マウスケーブルのプラグを、本体のマウスコネクタに差し込みます。

マウスコネクタは、本体リアパネルの「MOUSE」と表記されたコネクタです。マウスケーブルのプラグの矢印マークが、本体の「MOUSE」と表示されている側になるように差し込んでください。





ディスプレイケーブルの接続



接続作業を行うときには、必ず電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

本機には、LCD(液晶ディスプレイ)、CRT(ブラウン管タイプのディスプレイ)の両方を同時に接続して使用することができます。

●LCD



注 意

本機のLCD専用ケーブルはMVK-S513、BPC-Mシリーズの本体とFTDシリーズのLCDを接続するための専用のケーブルです。従って、他のシステムへの転用はできません。



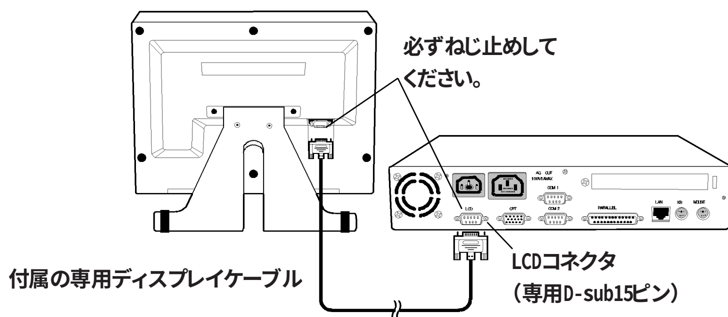
LCD専用のディスプレイケーブルのコネクタを、本機のLCDコネクタに差し込みます。

LCDコネクタは、本体リアパネルの「LCD」と表記されたコネクタです。付属の専用ディスプレイケーブルのコネクタと本体のLCDコネクタの向きを合わせて差し込んでください。しっかり奥まで差し込んだら、付属のドライバでコネクタをねじ止めしてください。



強制

LCDコネクタは必ずねじ止めしてください。
本機は、専用ケーブルでLCDへの電源を供給しています。本機の電源がONの状態でコネクタが抜けると、最悪の場合LCDの回路の一部が破壊されることがあります。

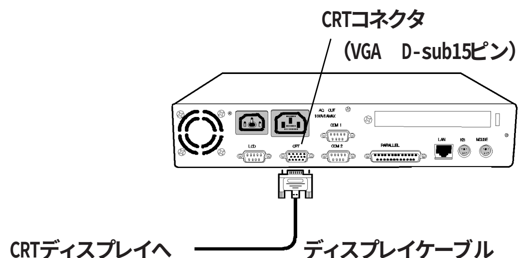


●CRT



CRTディスプレイケーブルのコネクタを、本機のCRTコネクタに差し込みます。

CRTコネクタは、本体リアパネルの「CRT」と表記されたコネクタです。ディスプレイケーブルのコネクタと本体のCRTコネクタの向きを合わせて差し込んでください。しっかり奥まで差し込んだら、付属のドライバでコネクタをねじ止めしてください。





接続作業を行うときには、必ず電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。



注意

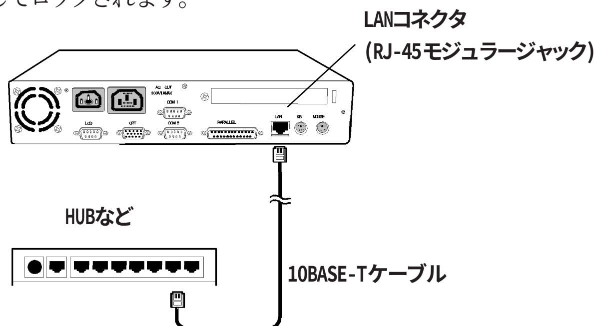
LANを利用するためには、本機を含め少なくとも2台以上のコンピュータが必要です。また、接続の形態により必要なケーブルは異なります。詳しくは、Windows95ファーストステップガイドなどのネットワーク関係の記事をご覧ください。

LANの接続



10BASE-Tケーブルのプラグを、本機のLANコネクタに差し込みます。

LANコネクタは、本体リアパネルの「LAN」と表記されたコネクタです。10BASE-Tケーブルのプラグと本体のLANコネクタの向きを合わせて差し込んでください。しっかり奥まで差し込むと、カチッと音がしてロックされます。



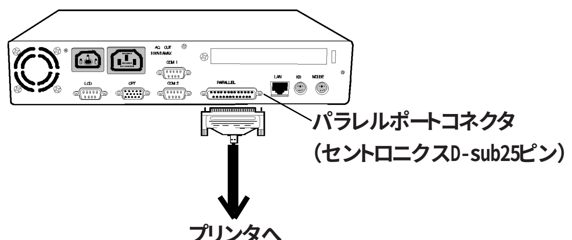


プリンタ等の接続



ケーブルのコネクタを、本機のパラレルポートコネクタに差し込みます。

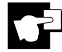
パラレルポートコネクタは、本体リアパネルの「PARALLEL」と表記されたコネクタです。プリンタ等、パラレルポートを使用する機器を接続できます。プリンタケーブルのコネクタと本体のパラレルポートコネクタの向きを合わせて差し込んでください。



RS-232Cの接続

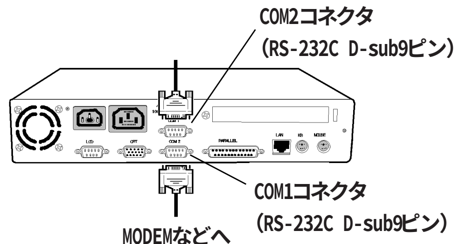


注 意
COM1/COM2コネクタに接続する機器により、クロスタイプケーブルまたはストレートタイプのケーブルをご用意ください。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。



モデムやシリアルマウスなどのRS-232Cケーブルのコネクタを、本機のCOM1/COM2コネクタに差し込みます。

COM1/COM2コネクタは、本体リアパネルの「COM1」または「COM2」と表記されたコネクタです。RS-232Cケーブルのコネクタと本体のシリアルポートコネクタの向きを合わせて差し込んでください。COM1、COM2のどちらにも接続することができますが、接続された機器を使用する場合には、OSまたはソフトウェアにより設定が必要です。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。



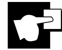
電源ケーブルの接続



強制
電源プラグは必ずコンセントに直接、接続してください。

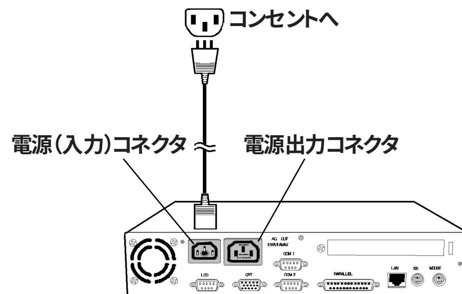


注 意
感電や漏電事故の元になりますので、タコ足配線はしないでください。



① **電源ケーブルのプラグを、本機の電源コネクタに差し込みます。**
しっかり奥まで差し込みます。

② **本機の電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。**



③ **電源プラグをコンセントに差し込みます。**



本機には、電源入力(コンセントから本機に電気を供給するコネクタ)の他に、周辺機器の電気を供給するための電源出力コネクタを装備しています。電源出力コネクタに接続された機器は、本機の電源スイッチと連動してON・OFFされます。最大100V、1Aまで供給することができます。定格電力に注意して活用してください。

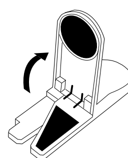
電源ONの前に

スタンドの取り付け

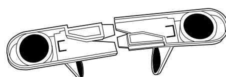
本体を縦置きで使用する場合には、転倒防止のため必ず付属のスタンドをお使いください。
スタンドは4個1組です。2個ずつ組み合わせます。



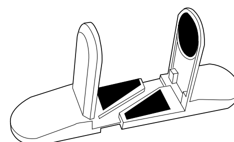
① スタンドを取り出し、次の図のように側面を支える部分を起こします。



② 結合して、2組のスタンドを組み立てます。

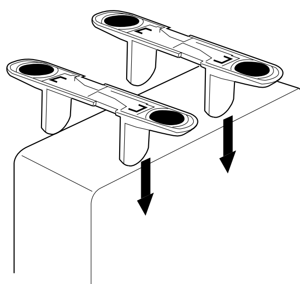


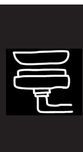
→



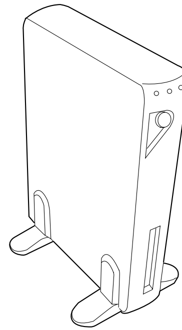
③ パソコン本体にスタンドをはめ込みます。

パソコンを上下逆（スタンドを取り付ける側を上）にして作業してください。
組み立てたスタンドをはめ込みます。





④ **スタンドを取り付けた本体を立ててみて安定していることを確認します。**

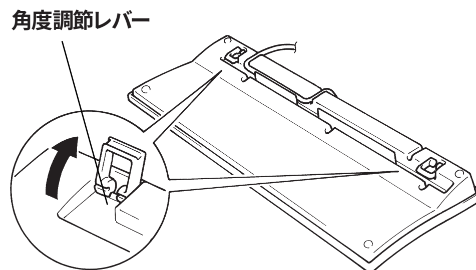


キーボードの角度調整 （標準サイズキーボードのみ）

キーボードは、角度調節ができるようになっています。お客様の好みによって、キーボードの角度を調節してください。キーボードの角度を調節することにより、肩・腕への負担を軽減することができます。



① **キーボードを裏返してください。**
② **角度調節レバー（2ヵ所）を起こしてください。**



起動時の注意事項

初めて電源スイッチをONにする前に次の事項を確認してください。

- **本機ならびにLCDなどの周辺機器は安定した状態に設置されていますか?**
  本機のスタンドやLCDのスタンドがぐらついていないか確かめてください。また、ケーブル類も操作の途中で引っかけたり、踏みつけたりしないようにまとめてください。
- **各周辺機器へは正しく接続されていますか**
- **コネクタ類はしっかり固定されていますか**
  とくにLCDコネクタは本体の動作中に抜けることがないように必ずねじ止めしてください。その他、ねじで固定できるコネクタはねじ止めしてください。



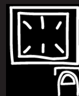
BIOSのセットアップについて

BIOSのセットアップは、フロッピードライブや、ハードディスクドライブ、メモリ、拡張カードなどのシステム環境をパソコンに登録する作業です。システムの導入や拡張の際に行いますが、BPC-Mシリーズは、出荷時に必要な設定を行っておりますので、通常はBIOSセットアップを行う必要はありません。

不用意に設定を変更すると、システムが不安定になったり、起動できなくなることがありますので、ハードディスクの交換や拡張カードを取り付けたときに、BIOSのセットアップの内容を理解した上で行ってください。

設定にあたっては、「5.BIOSのセットアップ」(P.73)をご覧ください

3.起動とセットアップ



通常使用するのに必要なWindows95のセットアップと画面、LANボードの設定などの準備作業と、キーボード、マウスの操作、アプリケーションソフトの起動方法、データのバックアップについてなどの基本的な操作方法を説明します。

電源を ON にする



強制

本章の操作を行う前に必ず、前項までの操作・作業を行い、「起動時の注意事項」をご覧になり、接続などの確認を行ってください。

フロッピードライブに何もセットされていないことを確認してください。
また、初めて電源をONにするときは、必ず、前項までの操作・作業を行って、「起動時の注意事項」をご覧になり、接続などの確認を行ってください。



① **周辺機器の電源をONにします。**

本機の電源をONにする前に、プリンタ、モデム本機に接続されている機器の電源をONにします。CRTを接続しているときは、CRTの電源もONにしてください。

LCDは、本機から電源が供給されますので、電源スイッチの操作は必要ありません。

② **本機の電源スイッチをONにします。**

電源表示のLED(緑)が点灯します。

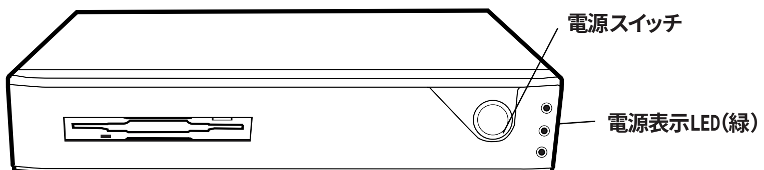


強制

電源をONにして、すぐにOFFにする操作はしないでください。電源をONにするとコンピュータはOSを読み込むために、ハードディスクにアクセスします。ハードディスクへアクセス中に電源をOFFにすると、最悪の場合、ハードディスクが破壊され、正常に起動できなくなります。
電源をOFFにするときには、OSを正しく終了させてください。



「電源をOFFにする」(P.41)



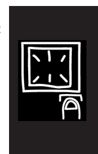
しばらくすると、Windows95の画面が表示されます。その後、初めて電源をONにしたときには、Windows95のセットアップ画面が表示されます。
2回目以降は、Windows95のデスクトップが表示されます。

Windows95 のセットアップ

Windows95 をセットアップする前に

1. ディスプレイ、キーボード、マウスなど、使用する周辺機器の取り付けを済ませてください。取り付けの方法は本書「2.接続方法」(P.11)および各周辺機器の取扱説明書でご確認ください。
2. Windowsのセットアッププログラム実行中に、ご使用になるプリンタを設定するための問い合わせがあります。
   プリンタを使用する場合は、セットアップの前にプリンタを接続し、メーカー名・製品名を確認しておいてください。プリンタを使用しない場合には、設定をキャンセルし、次に進むこともできます(プリンタの設定はWindowsセットアップ後でも、必要なときに改めて行えます)。
3. 以下の説明は、BPC-Mシリーズを例にしています。
   MVK-S513のみをお使いの方はWindows95のマニュアルを参照してセットアップを行ってください。

起動とセットアップ



Windows95 をセットアップする

本製品のハードディスクには、Windows95をセットアップするためのファイルや情報がすべて登録されています。
本製品の電源をONにすると、Windowsをセットアップするためのプログラムが起動します。画面の指示に従っていくつかの質問に答えていくと、あなたのハードディスクにWindows95がセットアップされ、使用可能になります。



① 使用する周辺機器をすべて取り付け、パソコンの電源をONにしてください。
② [名前(A)][会社名(C)]にあなたの名前と会社名を入力してください(名前は任意)。省略することはできません。[次へ>]をクリックしてください。
③ 使用許諾契約の文面が表示されます。[同意する]のラジオボタンをクリックしてから[次へ>]をクリックしてください。[同意しない]をチェックした場合は、セットアップが中断されます。

※ Windows95を使用するためには、Windows95の使用許諾契約書(EULA)に同意する必要があります。

④ **「Certificate of Authenticityの番号」を入力するダイアログが表示されます。**

入力すべき番号は、付属マニュアル「Windows95ファーストステップガイド」表紙の、バーコードの上に印刷されています(Product ID:に続く、ハイフン含み23桁の番号)。
番号入力のエリアに、記載されている番号をすべて入力してください。
(例)　部分は画面に表示されています。

21095—OEM—1234567—12345

入力したら、[次へ>]をクリックします。

⑤ **「ウィザードの開始。すべての情報が表示されました。・・・」のメッセージが表示されたら[完了]ボタンをクリックしてください。**

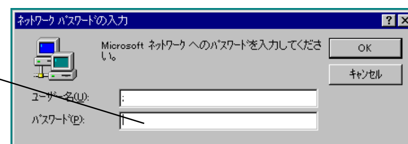
⑥ **「システム設定の変更。今すぐ再起動しますか?」のメッセージが表示されたら[はい]ボタンをクリックしてください。**

⑦ **「セットアップが完了しました。フロッピーディスクドライブからディスクを取り出してください(…以下略)」と表示されたら、[OK]ボタンをクリックしてください。Windows95が再起動されます。**

これでセットアップの第一段階が終了します。次の段階でプリンタのインストールなどを行ってセットアップを完了させます。

⑧ **Windows95再起動後、ユーザ名とネットワークのパスワードを入力するダイアログがオープンします。**
[ユーザ名(U)]に、あなたの名前を入力し、続いてパスワードを入力してください。パスワードを設定しない場合は、入力欄を空欄にしたまま[OK]をクリックします。
[OK]をクリックしてください。
パスワードの入力確認ウィンドウが表示されたら、設定したパスワードを入力し、[OK]をクリックしてください。パスワードを設定しない場合は入力欄を空欄にしたまま[OK]をクリックします。

[パスワード]は、省略できます。個人で使用するなど、セキュリティ管理が必要ない場合は、設定の必要ありません。



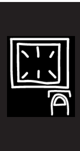
⑨ **[プリンタウィザード]が起動します。プリンタのドライバを組み込むことができます。必要なければ[キャンセル]でインストールを省略してください。**
以後は、プリンタのインストールを行う前提で説明しています。

⑩ **[次へ>]をクリックしてください。**



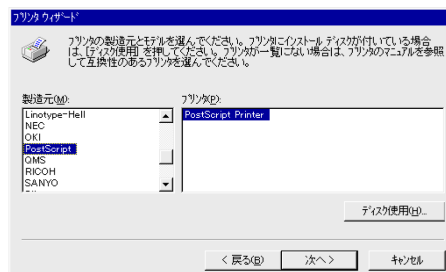
プリンタドライバのインストールは、Windows95のセットアップ終了後随時行えます。

⑪ **プリンタがどこに接続されているかを選択します。画面の説明に従って[ローカルプリンタ(L)]または[ネットワークプリンタ(N)]を選択し、[次へ>]をクリックしてください。**



⑫ **プリンタの製造元と製品名をリストから選択し、[次へ>]をクリックしてください。**

プリンタのメーカーからドライバのディスクが提供されているときは、[ディスク使用]をクリックし、メーカーの指示に従ってディスクからドライバをインストールしてください。



⑬ **プリンタが接続されているポートを選択し、[次へ>]をクリックしてください。本製品の場合は、デフォルトの[LPT1]を選択します。**

⑭ プリンタに任意の名前を付けることができます。ネットワーク上で特別な名前による識別が必要な場合などに、名前を変更します。通常はデフォルトのモデル名で使用すれば問題ありません。[次へ>]をクリックしてください。



デフォルトでは手順⑫で選択されたモデル名が登録されています。

⑮ 正常にプリンタを使用できるかどうか確認するために、テストページを印刷できます。テスト印刷が必要ない場合には[いいえ]のラジオボタンをチェックしてください。

⑯ [完了]を押せばプリンタの設定は完了です。

テスト印刷する設定になっているとき(デフォルト)は、テストページが1ページ印刷されます。

ネットワークを使用するときは

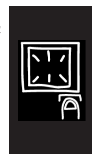
Windows95システムのインストール時に内蔵のLANボードを検出して自動的にネットワークドライバをインストールします。そのため、ドライバのインストールは必要ありません。ただし、本機のフロントパネルのLAN-LEDを正しく表示させるために設定の変更だけを行います。



① **スタートメニューをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]を開きます。**

コントロールパネルが開きます。




起動とセットアップ

② **[システムアイコン]をダブルクリックします。**

③ **[デバイスマネージャ]タブをクリックします。**

④ **ネットワークアダプタの左の⊞をクリックします。**



⑤ **[AMD PCNET Family Ethernet Adater(PCI & ISA)]をクリックします。**

⑥ **[プロパティ(R)]ボタンをクリックします。**

⑦ [情報]タブの「デバイス使用」で[すべてのハードウェア環境で使用する]がチェックされていることを確認します。チェックされていなければ、クリックしてチェックしてください。



ネットワークをクリックします。

⑧ [OK]ボタンをクリックします。

⑨ [OK]ボタンをクリックします。

手順⑦でチェックを付けた場合は、「再起動しますか?」とメッセージが表示されますが、[いいえ(N)]ボタンをクリックして、続行してください。

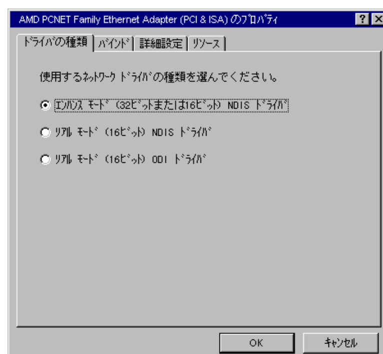
⑩ コントロールパネルの[ネットワーク]のダイアログが表示されます。



⑪ 「AMD PCNET Family Ethernet Adater(PCI & ISA)」をクリックします。

⑫ [プロパティ(R)]ボタンをクリックします。

「AMD PCNET Family Ethernet Adater(PCI & ISA)のプロパティ]が開きます。



⑬ [詳細設定]のタブをクリックしてください。

⑭ 「プロパティ」のボックスのLED0をクリックします。

⑮ 右側の「値」のコンボボックスから「C0」を選択します。

なお、すでに設定されていれば変更の必要はありません。



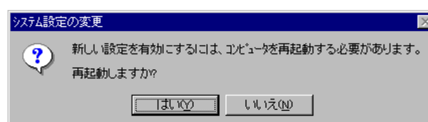
⑯ 同じ要領で、LED1をB0、LED2を4088、LED3を81、TPをONに設定します。

⑰ [OK]ボタンをクリックしてプロパティを閉じます。

ネットワークダイアログに戻ります。

⑱ [OK]ボタンをクリックします。

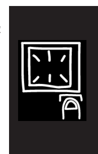
設定を変更すると、次のダイアログが表示されます。



変更した内容は、Windows95を再起動してから有効になります。

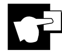
⑲ [はい(Y)]ボタンを選択して、Windows95を再起動してください。

以上で、Windows95でネットワークを使用するための設定は終了です。



日付と時刻の設定

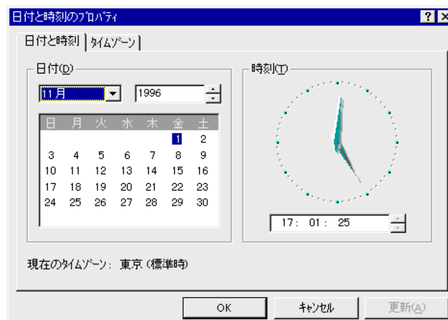
インストールが完了すると、[日付と時刻のプロパティ]がオープンします。ここで本製品に、正しい日付と時刻を設定します。



① **地図の上にあるテキストボックスで[東京、大阪、札幌(…以下略)](デフォルト)を選択した後、[日付と時刻]タブをクリックしてください。**



② **正しい日付と時刻を選択して、[OK]ボタンをクリックしてください。これでWindows95のセットアップは完了です。**



③ **インストール完了後、Windows画面になり、[Windows95へようこそ]ダイアログが表示されます。**

ここでWindows95の機能紹介などを参照することができます。必要があれば参照してください。必要なければ[閉じる]をクリックしてこのダイアログを閉じてください。



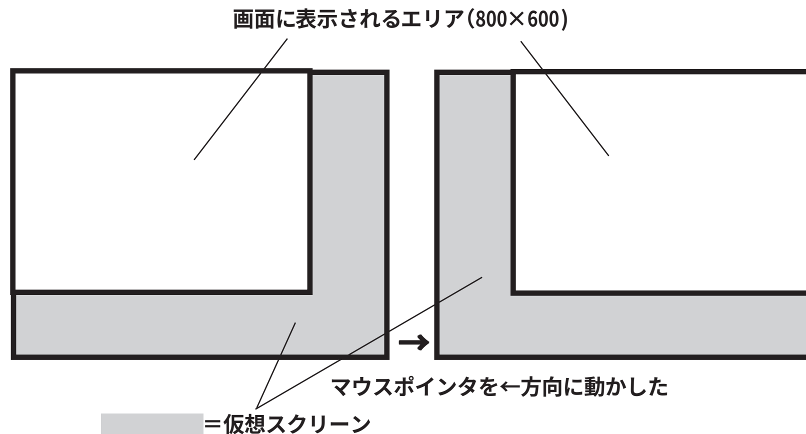
画面の設定（Windows95）

本機のウィンドウ・アクセラレータは、仮想スクリーンをはじめとする便利な表示機能を持っています。Windows95のセットアップが終了したら、必要に応じて画面機能の設定を行ってください。

表示機能の設定

●仮想スクリーンで使用したいとき

仮想スクリーンは、800×600ドット表示固定のLCDで使用するときに、デスクトップを1280×1024ドット表示に広げる機能です。LCDの画面にはそのうちの800×600ドットの範囲が表示され、マウスポインタを移動することで、表示範囲をスクロールさせて使用します。





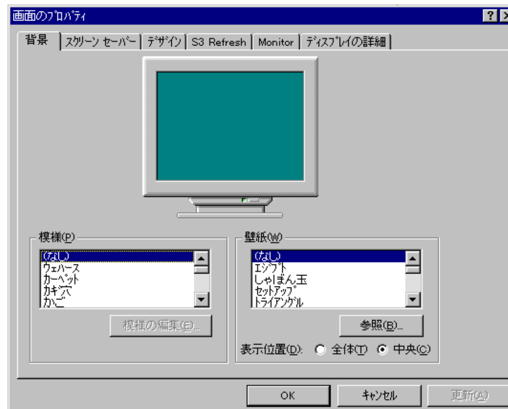
① スタートボタンをクリックし、スタートメニューの［設定］－［コントロールパネル］をクリックします。

コントロールパネルダイアログが表示されます。



② **[画面]のアイコンをダブルクリックします。**

画面のプロパティが表示されます。



③ **[ディスプレイの詳細]タブをクリックします。**



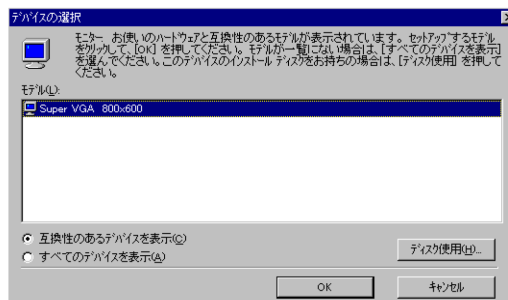
④ **[詳細プロパティ(A)]をクリックします。**

[ディスプレイの詳細プロパティ]が表示されます。

⑤ **[モニター]のタブをクリックします。**

⑥ **[変更(C)]ボタンをクリックします。**

デバイスの選択ダイアログが表示されます。



⑦ **「すべてのデバイスを表示(A)」を選択します。**

⑧ **「Super VGA 1280×1024」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。**
[ディスプレイの詳細]プロパティに戻ります。

⑨ **[更新]ボタンをクリックします。**

⑩ **[リフレッシュレート　ディスプレイのリフレッシュレートを調整します]というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。**

⑪ **「ディスプレイのリフレッシュレートが変更されました。この設定を保存しますか?」というメッセージが表示されます。[はい]をクリックします。**

⑫ **[ディスプレイの詳細]プロパティに戻ります。[OK]をクリックします。**

⑬ **[デスクトップ領域]を1280×1024に合わせます。**

⑭ **[更新]ボタンをクリックします。**

⑮ **「ディスプレイの設定を変更します...」のメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。**

⑯ **「この設定を保存しますか?」というメッセージが表示されます。[はい]をクリックします。**

[OK]ボタンをクリックし、「画面プロパティ」ダイアログを閉じます。

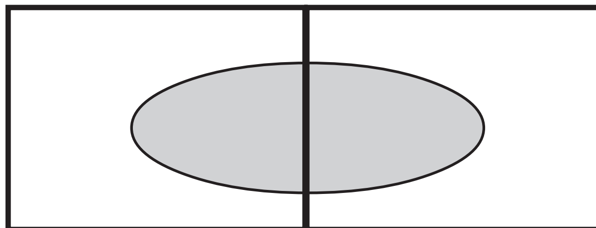


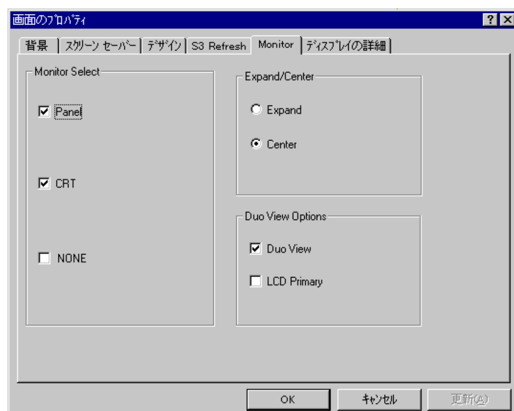
●マルチディスプレイを使用したいとき（Windows95のみの機能です）

マルチディスプレイは2台のディスプレイで1画面を表示する機能で、横長の広いデスクトップを実現します。マルチディスプレイ機能を使うには、本機にLCDディスプレイとCRTディスプレイを接続します。それぞれ、本機のLCD、CRTコネクタに正しく接続してください。また、ディスプレイを2台接続せずに、このマルチディスプレイ機能を設定すると画面の半分が表示されなくなり、Windows操作ができなくなりますのでご注意ください。



① **「画面プロパティ」ダイアログから[Monitor]のタブをクリックします。**





② 「Duo View Option」の[Duo View] をチェックします。

「A display resolution ...」というメッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

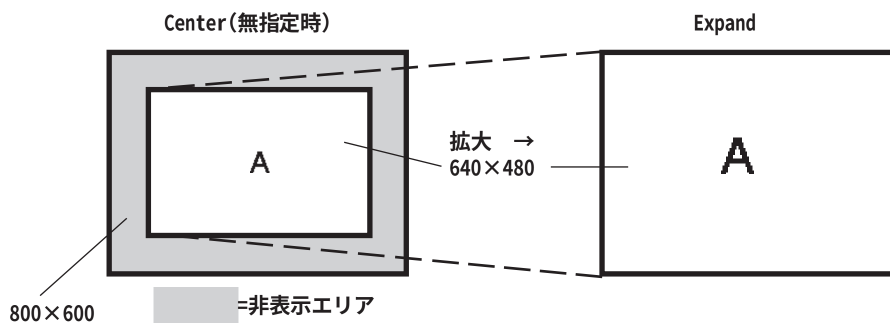
③ [OK]ボタンをクリックし、「画面のプロパティ」を閉じます。

設定はパソコン再起動後に有効になります。

④ 「再起動しますか?」と表示されますので、[はい]をクリックして、再起動してください。

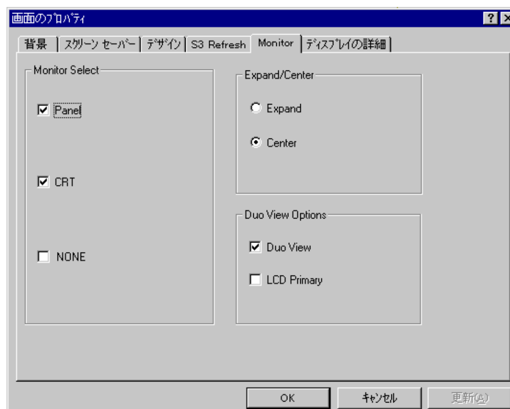
- 2台ディスプレイを接続せずに、「Duo View」をチェックするとマウスが表示されなくなり、Window操作ができなくなりますのでご注意ください。
- LCDを左画面の表示用に使用するときは、[LCD Primary]をチェックします。

●解像度640×480の画面表示を画面全体に表示したいとき





① 「画面プロパティ」ダイアログから[Monitor]のタブをクリックします。



② 「Expand/Center」の[Expand]をチェックします。

③ [OK]ボタンをクリックし、「画面プロパティ」ダイアログを閉じます。

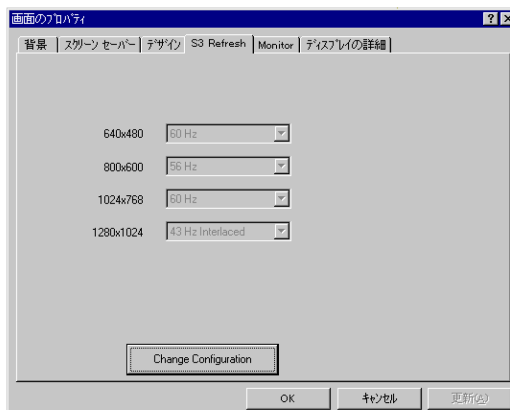


●CRTディスプレイのリフレッシュレートの変更

LCD使用時は800×600ドット、60Hz固定となり、ここでの設定はすべて無視されます。

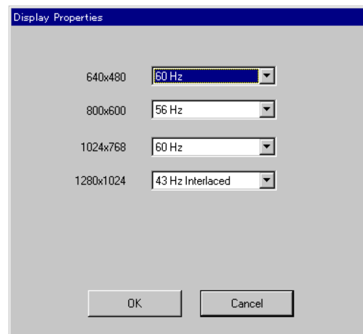


① 「画面プロパティ」ダイアログから[S3 Refresh]のタブをクリックします。



② [Change Configuration]ボタンをクリックします。

③ ご使用のCRTディスプレイの取扱説明書を参照し、解像度ごとにリフレッシュレートを変更します。



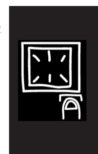
④ [OK] ボタンをクリックし、「画面プロパティ」ダイアログを閉じます。

アプリケーションソフトの起動

Windows95で動作するアプリケーションソフトのもっとも一般的な起動方法を説明します。
アプリケーションソフトとは、ワープロや表計算、お絵かきというように、コンピュータにある特定の仕事をさせるためのソフトウェアのことです。アプリケーションソフトを使えば、パソコンを仕事や遊びの道具として簡単に使うことができます。
様々な種類のアプリケーションソフトが、CD-ROMやフロッピーディスクなどの媒体に記録されて市販されています。



スタートメニューへの登録方法
自動的にスタートメニューに登録されないアプリケーションソフトもあります。その場合は、自分で登録します。登録の方法は、「ファーストステップガイド」のP.9、P.53をご覧ください。



●アプリケーションソフトのインストール

市販のアプリケーションソフトを自分のパソコンのハードディスクに登録して、使用できるようにすることを、インストールといいます
アプリケーションソフトの中にはフロッピーディスクやCD-ROMから直接起動できるものもありますが、一般的には、ハードディスクから起動します。そのために、インストールプログラムで、フロッピーディスクなど媒体からハードディスクにアプリケーションソフトを複写し、使用できる状態にし、同時にWindows95のスタートメニューにショートカットを自動的に登録します。

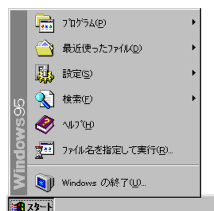
インストール方法はアプリケーションソフトの取扱説明書をご覧ください。

●アプリケーションソフトの起動方法

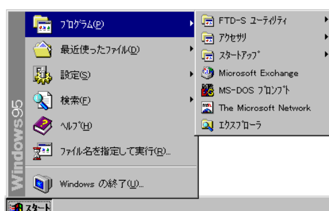
最も一般的なスタートメニューからの起動方法を説明します。Windows95に標準添付されているお絵かきソフト「ペイント」を起動してみましょう。



① **Windows95を起動してください。**
② **［スタート］ボタンをクリックします。**
スタートメニューが表示されます。

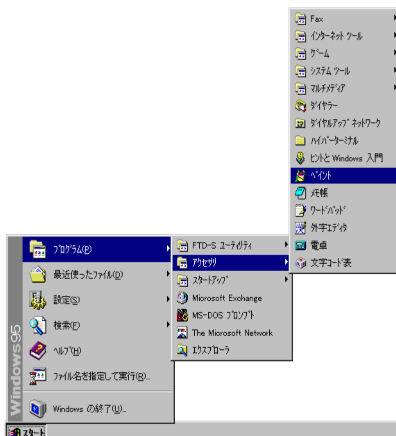


③ **スタートメニューの［プログラム］にポインタを合わせます。**
サブメニューが表示されます。



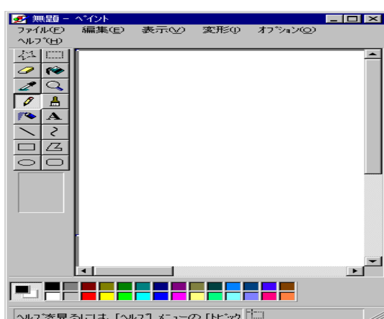
④ **[アクセサリ]のフォルダにポインタを合わせます。**

さらにサブメニューが表示され、その中に「ペイント」が表示されます。



⑤ **サブメニューの[ペイント]をクリックします。**

「ペイント」が起動します。





注 意

起動した後、絵を描いたりした場合には、手順⑥の操作をすると、現状を保存するかどうかメッセージが表示されます。「保存しますか？」に対して［いいえ］をクリックすると終了することができます。ただし、描いた絵は消滅し、保存されません。保存したいときには、いったん［キャンセル］を選び、ウィンドウ上部に表示される［ヘルプ(H)］をクリックして、絵の保存の操作方法を調べてください。

以降の操作は、それぞれのアプリケーションソフトの取扱説明書をご覧になるか、またはウィンドウ上部に表示される[ヘルプ(H)]をクリックして操作方法を調べてください。

ここでは、そのまま何もしないでアプリケーションソフトを終わることにしましょう。

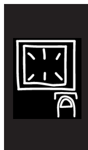
⑥ **ウィンドウの右上隅の☒のボタンをクリックします。**

「ペイント」のウィンドウが閉じて、終了します。

データとシステムの取り扱い

ハードディスク内容のバックアップ

ハードディスクに保存されているデータやプログラムの複製を、外部のメディアに作成することを「バックアップ」といいます。
ハードディスクには大量のデータやプログラムが記憶されており、事故や人為的なミスなど不測の事態でデータを失うことは、業務上大きな損失となります。この損失を最小限にくい止めるために、ハードディスクに保存したデータを別のメディア（記憶媒体）に複写して保存しておくことをおすすめします。





ハードディスク内容の複製（バックアップ）を、必ず日常こまめに作成してください。

バックアップには、一般的に次のようなメディアが使われています。

- ・フロッピーディスク
- ・光磁気（MO）ディスク
- ・LANサーバ

本製品に付属するハードディスク以外のデバイスは、フロッピードライブのみです。フロッピードライブをご使用になるか、もしISAバスにSCSIボードを装着されている場合は、MOドライブなどをご使用になることをお薦めします。
バックアップ用のメディアとしてフロッピーディスクを選択した場合は、大量のディスクが必要になる場合があります。枚数は、バックアップしたいデータやプログラムのサイズ合計（またはディスク容量）÷フロッピー容量分を予定されると良いでしょう。

バックアップを作成する場合には、OS標準添付のバックアップコマンドや、市販のバックアップツールなどを使用します。ツールの種類にかかわらず日常的にこまめにハードディスクのバックアップを作成するようにしてください。
また、バックアップデータを復元することをリストアといいます。リストアを行うコマンド／ツールは、一般的にバックアップツールが指定するものでなければなりません。取扱説明書などでご確認ください。

なおBPC-MシリーズのWindows95プリインストールモデルではWindows95セットアップ後、デスクトップ上にバックアップコマンド(Windows95付属のもの)アイコンがショートカットとして登録されています。



予定しているバックアッププログラムがない場合は、こちらをお使い頂くことをお薦めします。
なお、このバックアッププログラムでバックアップしたデータは、Windows95上でのみリストア可能です。
リストアする際には、Windows95が動作している必要があります。

起動ディスクの作成

Windows95がセットアップできたら、ご使用になる前に「起動ディスク」を作成しておいてください。
ハードディスクから正常にWindows95が起動できないときなどに、起動ディスクを使用します。
起動後は、DOSが使用できます。
「起動ディスク」を作成するプログラムが、[コントロールパネル]内に用意されています。プログラムを実行する前に、フォーマット済のフロッピーディスクを1枚用意しておいてください。



① [コントロールパネル]-[アプリケーションの追加と削除]を起動してください。
② [起動ディスク]タブをクリックしてください。ディスク作成用のダイアログが表示されます。[ディスクの作成]ボタンをクリックしてください。
③ [フロッピーディスクに'Windows95 起動ディスク'と書いたラベルを貼って…(以下略)]のメッセージが出ます。フロッピーディスクをフロッピードライブにセットして[OK]ボタンをクリックしてください。
④ 手順②の画面に戻ります。[OK]ボタンをクリックしてください。

以上で、起動ディスクの作成が終了しました。起動ディスクは大切に保管してください。

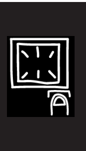
Windows95に関するトラブルへの対処

事故や、人為的なミスなどでハードディスクからの起動が正常に行えない場合や、Windows95が正常に動作しない場合は、以下の方法をお試しください。
なお、この項は、BPC-Mシリーズを対象にしています。それ以外の機種では、Windows95の再インストールなどのサポートはいたしかねますのであらかじめご了承ください。
あらかじめ、Windows95の起動ディスクを作成しておいてください。

「起動ディスクの作成」参照。(P.36)

トラブル内容と対応方法

起動とセットアップ



Windows95が起動できなくなった

ディスク内容、ファイル内容に問題があるのかもしれません。Windows95をsafeモードで起動し、終了してみてください

「●safeモードでの修正」参照。(P.38)

もし、safeモードでも起動できないときはハードディスクに問題がないか確認します。

起動ディスク(「起動ディスクの作成」参照)をドライブに挿入してパソコンの電源をONにします。DOSが起動しますので、DIR C:Enterでハードディスクの内容が確認できるかどうか試してください。
起動ディスクが作成されていないときは、DOSのシステムディスクが別途必要となります。

ハードディスクの内容が確認できるとき

「●修復セットアップ」(P.38)を参照し、セットアップを行ってください。

ハードディスクの内容が確認できないとき

故障の可能性があります。弊社インフォメーションセンターまでお問い合わせください。障害の内容によっては再インストール(有償)が必要となりますのであらかじめご了承ください。

Windows95が正常に動作しない

エラーが頻発したり、強制終了の必要が生じる場合には、アプリケーションソフトやデバイスに何か問題がある可能性があります。
問題が発生した時期がアプリケーションソフトやデバイスの追加・変更時期と同じであれば、追加したアプリケーションソフトやデバイスの製造元にトラブル内容・対処方法をご確認ください。
特にきっかけとなるアプリケーションソフトやデバイスの追加・変更がなければ、Windows95のモジュールに問題が発生したのかもしれません。
まずsafeモードでの起動を試してみてください。

 **「●safeモードでの修正」(P.38)参照**

もし、問題が解決できないようであれば、Windows95起動後、修復セットアップを行ってください

 **「●修復セットアップ」(P.38)参照**

●safeモードでの修正

Windows95をsafeモードで起動し、問題を解決する方法があります。例えばWindows95の起動中に(完全に起動する前に)電源をOFFにした場合、次の起動時に動作モードとしてsafeモードを選択できます。一度safeモードで起動し、終了させると、次回から再び正常に起動できるようになります。

この他にも、トラブルをsafeモード起動時に解決することができます。他のトラブルが発生したとき、safeモードで起動し、Windowsヘルプの「トラブルシューティング」を参照し、問題を解決してください。

 **safeモードでの起動方法、トラブルシューティングヘルプの参照方法は、「Windows95ファーストステップガイド」(P.100)以降を参照してください。**

●修復セットアップ

修復セットアップはWindows95実行用モジュールの破損を修復します(設定ファイルの破損は修復できません)。
C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS\SETUP.EXEを実行してください。
なお修復セットアップは、Windows95の設定の一部を初期状態に戻すため、現在使用している環境と異なる環境設定が行われることがあります。
本製品の場合、修復セットアップ終了後、以下の操作が必要となります。

ディスプレイドライバのインストール

「4.システムの組立と拡張」－「ディスプレイドライバのインストール」(P.58)参照

LANドライバのインストール(ネットワークを使用する場合)

「4.システムの組立と拡張」－「LANボードドライバのセットアップ」(P.61)参照

キーボードドライバのインストール

「トラブルシューティング」(P.90)参照

また、修復セットアップを実行した場合、ネットワーク上で自分のパソコンが確認できなくなります。この場合、Windows95のレジストリ・エディタを使用して再設定します。





① [スタート]－[ファイル名を指定して実行]で REGEDIT.EXEを実行してください。

② [マイコンピュータ]－[HKEY_LOCAL_MACHINE]－[SOFTWARE]－[Microsoft]－[Windows]－[Current Version]－[Network]－[Real Mode Net]の順にクリックしてください。

③ 表示されたリストの[autologon]をクリックで選択し、Deleteキーを押して削除してください。
「この値を削除してよろしいですか?」の確認メッセージが出ます。[はい]を選択してください。

④ レジストリ・エディタを終了させてください。

⑤ 「4.システムの組立と拡張」－「LANボードドライバのセットアップ」(P.62)を参照して、ネットワークのユーザ情報を設定してください。

⑥ 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。再起動しますか?」の問い合わせが表示されたら[はい]をクリックして、再起動してください。

再起動後、ネットワークに接続されたパソコンを確認するときにF5キーを押してください。自分のパソコンを含めたネットワーク全体が表示されます。

※最初の接続確認のみ自分のパソコンが表示されるまでに30秒～1分程度時間がかかることがあります。



注意

弊社での再インストールサービスは、出荷時状態のディスクを復元するものです。ハードディスクをいったんフォーマットしますので、お客様がハードディスクに保存されたデータ、プログラムなどはすべて消去されます。
あらかじめバックアップを作成し、弊社からの返却後リストアしてください。

●Windows95再インストールサービス(有償・5000円 税別)

BPC-MシリーズのWindows95プリインストールモデルをお使いの方で、運用中に、万一Windows95を再インストールする必要が生じた場合には、付属のCD-ROMからインストールを行います。もし、CD-ROMドライブが増設されていない場合には、Windows95のフロッピーディスクなどを別途ご用意いただくか、弊社にお送り頂ければ再インストールしてお返しします(有償・5000円 税別)。



ご送付先は「修理について」に記載された弊社修理センターとなります。

電源を OFF にする

Windows95 の終了方法

パソコンの電源をOFFにするときには、必ずWindows95を終了させてください。Windows95を終了させることで、それまでの作業内容が保存されます。Windows95の動作中や、ハードディスクやフロッピーディスクの動作中に電源をOFFにすると、最悪の場合、次回正常に起動できなくなることがあります。必ず以下の手順で終了するようにしてください。

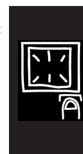


① **［スタート］ボタンをクリックします。**

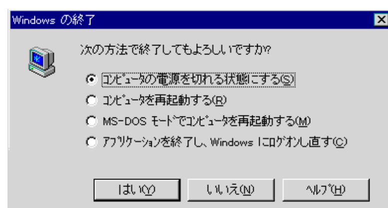
スタートメニューが表示されます。

② **スタートメニューの［Windowsの終了］をクリックします。**





③ **Windowsの終了ダイアログが表示されます。「コンピュータの電源を切れる状態にする(S)」を選択します。**



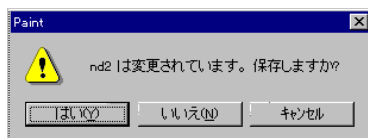
④ **［はい(Y)］をクリックします。**

コンピュータの電源をOFFにしてもよい状態になるとメッセージが表示されます。このとき、使用中のアプリケーションソフトのデータファイルの変更内容などを保存していない場合は、保存して終了するかどうか確認のメッセージが表示されます。必要に応じて、保存または保存しないを選択して、必要な操作を行ってください。操作方法は、各アプリケーションソフトの取扱説明書を参照してください。



注 意

アプリケーションソフトなどを使用中に、Windowsの終了操作を行った場合にのみ表示されます。操作せずに終了する場合にはこのダイアログは表示されません。



⑤ コンピュータの電源をOFFにしてもよい状態になると、メッセージが表示されます。

これで、Windows95が正常に終了しました。

⑥ パソコンの電源をOFFにしてください。

4.システムの組立と拡張

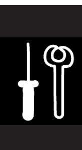


この章では、MVK-S513の組立方法を説明します。
BPC-Mシリーズのパソコン本体は、工場出荷時にメモリ・ハードディスクを取り付けてある以外は、MVK-S513と同等ですので、BPC-Mシリーズのパソコンの拡張、改造時には、本章の各項目のうち、該当する部分をお読みください。

組立の前に

組立上の注意事項

本機は精密な機器です。正しく使用するために、必ず読んでください。パソコンの故障・トラブルまたは、取り扱いを誤ったために生じたMVK-S513・BPC-Mシリーズの故障・トラブルは、(株)メルコの保証対象には含まれません。



各ハードウェアの取り付けに関する注意

- **すべての機器の電源をOFFにし、電源ケーブル、各ケーブル類を取りはずしてから作業をしてください。そのままで取り付け・取りはずしを行うと、感電の原因となります。**
- **各ハードウェアの取り付け作業をするときは、必ずパソコンの電源をOFFにし、パソコン内部の温度が下がったことを確認してから作業してください。CPUなど高温になっている所があり、やけどの恐れがあります。**
- **身近な金属(ドアノブやアルミサッシなど)に手を触れ、身体の表面や衣類に発生している静電気を逃してから取り付け作業をしてください。**
- **濡れた手で触れたり、作業したりしないでください**
- **各ハードウェアの取扱いは、それぞれの機器の取扱説明書をよく読んで、各メーカーの定める手順で行ってください。**
- **各接続コネクタのチリ、ホコリ等は接続の前に取りのぞいてください。**

組立に必要な工具

プラスドライバ

本機の組立は、中サイズのプラスドライバだけで行うことができます。
ケースの取りはずし・取り付けや、周辺機器のコネクタやカードを取り付けるときに使用します。
ねじにあった大きさのドライバをご用意ください。

ピンセット

ジャンパブロックの差し替えのときなどに便利です。ピンセットは、先端が鋭くとがったものよりも、先端まで力が伝わりやすいものをおすすめします。

ラジオペンチ

必須ではありませんが、あるとさらに便利です。

必要なハードウェア

MVK-S513を動作させるためには、最低限本体に内蔵するメモリ、ハードディスク、外部の周辺機器としてディスプレイ、キーボード、マウスが必要です。なお、この項の最後に、MVK-S513、BPC-Mシリーズ対応のオプション製品の一覧表を掲載しています。

メモリ

弊社製増設RAMボードVMB-P4MG～VMB-P32MGなどの1インチサイズの、アクセスタイム70nsec以上、72ピンSIMMを使用します。1枚単位で内蔵することができます。最大で64MB(32MB×2)まで増設することができます。

ハードディスクドライブ

IDEタイプのハードディスクドライブが使用可能です。
Windows NT、Windows95をインストールするには、100MB以上のディスク容量が必要です。さらにお使いになるアプリケーションソフトのファイルサイズを加味して余裕のある容量のハードディスクドライブをご用意ください。なお、本機には2台以上のハードディスクドライブを内蔵することはできません。

マウス

PS/2タイプのマウスをご用意ください。シリアルマウスの使用も可能です。

キーボード

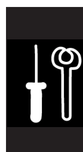
PS/2タイプのキーボードをご用意ください。

ディスプレイ

弊社製FTDシリーズのLCD、またはCRTディスプレイをご用意ください。
本機の省スペース性を有効に発揮するために、弊社製FTDシリーズをお薦めします。本機には、FTDシリーズ専用のコネクタを搭載しています。
本機に搭載のウィンドウ・アクセラレータは、CRT単体で使用時に最大で1280×1024ドットの解像度で出力可能です。

拡張用ISAカード

本機には、ISAバス1基が装備されていますが、コンパクトなボディの制約上、取り付け可能なカードは、ハーフサイズで実装部品の高さが11㎜以下にものに限られます。



（株）メルコ製MVK-S513／BPC-Mシリーズ対応製品一覧表

品　名	容　量	型　番	仕　様
メモリ	4MB	VMB-P4MG	72ピン、70ns、1インチサイズ
	8MB	VMB-P8MG	72ピン、70ns、1インチサイズ
	16MB	VMB-P16MG	72ピン、70ns、1インチサイズ
	32MB	VMB-P32MG	72ピン、70ns、1インチサイズ
ハードディスク	1200MB	DBI-V1200	エンハンスドIDE対応
	1600MB	DBI-V1600	エンハンスドIDE対応
	2000MB	DBI-V2000	エンハンスドIDE対応
	2500MB	DBI-V2500	エンハンスドIDE対応
ディスプレイ	液晶ディスプレイ	FTD-SD11	11.3インチDSTNカラー
		FTD-ST12P	12.1インチTFTカラー
キーボード	日本語109小型	KMV-JM109P	PS/2タイプ小型
	日本語109標準	KMV-J109P	PS/2タイプ標準
マウス	PS/2タイプ	PMV-PM	3ボタンマウス
	シリアルタイプ	PMV-SM2	RS-232C準拠、2ボタン
	ワイヤレスタイプ	PMV-RM	RS-232C準拠、2ボタン
ISAカード	SCSIインターフェース	IFC-VI	ハーフサイズ、PnP対応

上記以外の製品ならびに新製品については、最新のカタログまたはインターネットホームページ（http://www.melcoinc.co.jp/）をご参照ください。

組立て方法

ケースの分解方法

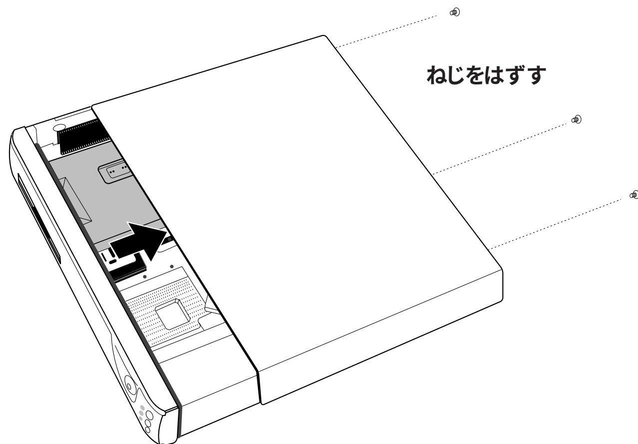


分解・組立は必ず電源をOFFにして行ってください。感電の危険があります。



① 本機がすでに接続済みであれば、電源をOFFにし、電源ケーブル、マウス、キーボード、RS-232Cなどリアパネルのコネクタに接続されているケーブル類をすべて取りはずします。

② リアパネルのケースを固定しているネジ3本をはずします。





注 意

組立作業中は、取り外したケースは使いませんので、作業の邪魔にならない安全な場所に保管してください。

③ 両手でケースの側面を持ち、両方の親指でリアパネルを押します。

④ 少しケースから本体が出たところで、フロントパネルを持ち、静かにケースから本体を抜き取ります。

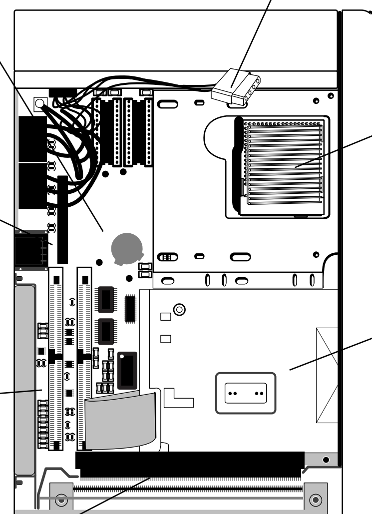
このとき、底面にはマザーボードが露出します。マザーボードに力が加わらないように注意してください。

ケース内部各部の名称

本機のケースを取りはずすと、次のようにコンポーネントが配置されています。BPC-Mシリーズで、ハードディスクが取り付けられてるモデルでは、下図のようにCPUが見えることはありません。

マザーボード
MVK-S513/BPC-Mシリーズ専用のマザーボードです。CPU、コントローラチップなどの主要な部品が実装されています。本機にはウィンドウアクセラレータ、LANインターフェイスもマザーボード上に搭載されています。

ハードディスクドライブ用電源コネクタ
ハードディスクへ電源を供給するためのコネクタです。



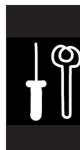
CPU
CPUソケットに取り付けられています。ハードディスクが装着されているときは、見ることができません。

ハードディスクドライブ用コネクタ
IDEタイプのハードディスク用のコネクタです。本機にはIDEハードディスクを1台内蔵することができます。

フロッピーディスクドライブ
3.5インチ2モードドライブです。

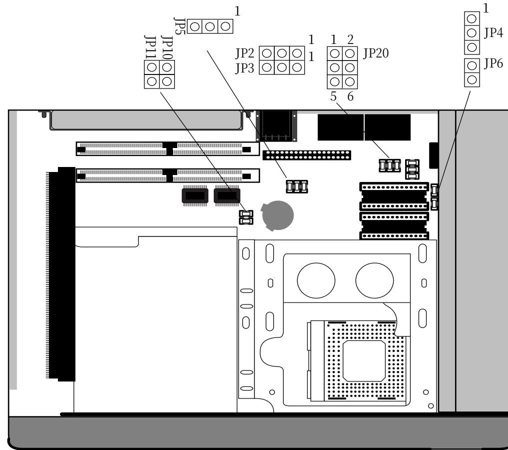
メモリソケット
72ピン増設RAMボード用ソケットです。

拡張用ISAバススロット
SCSIボードなどISAバス対応の拡張カードを取り付けることができます。構造上、ハーフサイズのカードのみ装着可能です。



ジャンパ設定

マザーボード上にはシステム設定のためのジャンパスイッチが配置されています。

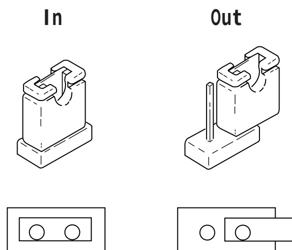


お使いになるCPUやディスプレイに合わせてそれぞれのジャンパスイッチを設定してください。

ジャンパスイッチは、ジャンパブロックを差し込んだり、はずしたりして切り換えます。

ジャンパブロックを差し込んだ状態をIn、はずした状態をOutと表します。また、1 - 2 と表記されているときは、ジャンパピンの1番と2番にジャンパブロックを取り付けてInにすることを意味します。

In **Out**



（真上から見た図）

ピンセットや小型のラジオペンチをお使いになると便利ですが、基板に傷を付けないようにご注意ください。

CPUタイプの設定

ライトスルーは、CPUが常にキャッシュとメインメモリの両方に書き込む方式。ライトバックは、CPUが書き込むのはキャッシュのみで、更新時にまとめてメインメモリに書き込む方式です。CPUに比べて速度の遅いメインメモリに書き込みが少ない分、ライトバックが有利な場合があります。

CPUタイプ

■:工場出荷時設定

	CPUキャッシュモード	クロック倍数	JP4	JP6	
AMD 5x86	ライトバックモード	×3	1-2	Out	
		×4		In	■
	ライトスルーモード	×3	2-3	Out	
		×4		In	
AMD 486（ライトバックキャッシュサポート）	ライトバックモード	×3	1-2	Out	
		×2		In	
	ライトスルーモード	×3	2-3	Out	
		×2		In	
AMD 486（ライトバックキャッシュなし）	ライトスルーモードのみ	×3	1-2	設定は無関係	
		×2	2-3	設定は無関係	

CPU外部クロック

	JP10	JP11	
25MHz	Out	Out	
33MHz	In	In	■
40MHz	In	Out	

システムの組立と拡張



設定例

	JP4	JP6	JP10	JP11	
AMD 5x86-P75(133MHz)	1-2	In	In	In	■
AMD 486DX4 120MHz	1-2	Out	In	Out	
AMD 486DX4 100MHz	1-2	Out	In	In	

LCDディスプレイの設定

LCDディスプレイを変更する場合に、設定を変更してください。

	JP2	JP3	JP20	
FTD-SD11使用時	1-2	1-2	3-4	■
FTD-TS12P使用時	2-3	2-3	1-2、3-4	
LCD未使用時*	2-3(1-2でも可)	2-3(1-2でも可)	3-4、5-6	

*: FTD-SD11/ST12P使用時は、640×480ドットの解像度でも800×600ドットの動作モードで表示します。このときは800×600ドットのスクリーンのうちの中央部640×480ドットのエリアに表示しています。CRTのみ使用し、LCDを使用しない場合で640×480ドットの解像度で画面全体に表示したい場合にのみ選択できます。

BIOSセットアップ情報の破棄

	JP5	機能	
NORMAL	2-3	通常使用時(出荷時設定)	■
DISCHARGE RTC	1-2	BIOSセットアップでの設定値を出荷時の状態に戻す カレンダ設定も破棄されます	



作業の前に、必ずパソコンの電源をOFFにしコンセントからプラグを抜いてください。



強 制

静電気による破壊を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。
人体などからの静電気は、本製品を破損させる恐れがあります。



禁 止

メモリのコネクタやピンなどの金属部分に素手で触れないようにしてください。
静電気破壊や接触不良などの故障の原因になることがあります。



注 意

挿入方向を間違えないでください。
無理に取り付けると増設RAMボードやソケットを破損する恐れがあります。

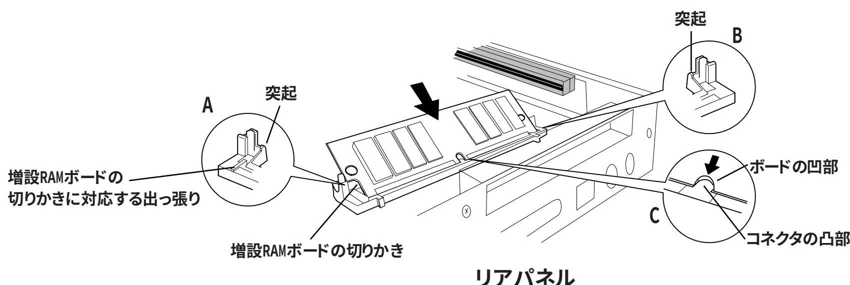
メモリの取り付け（交換）

メモリは72ピンノンパリティの増設RAMボードを使用します。MVK-S513には、2本のメモリソケットが用意されています。増設RAMボードは1本単位で増設・交換することができます。最大で64MB(32MB増設RAMボード×2)まで内蔵可能です。
なお、本機では増設RAMボードを斜めに固定する方式のソケットを採用しています。使用可能な増設RAMボードは高さ25.4mm（1インチ）以内のものに限られます。

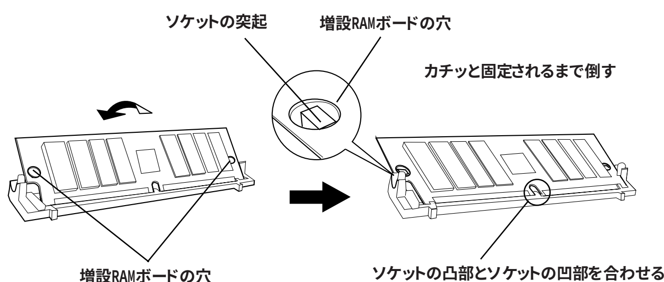


① 増設RAMボードの切りかきとメモリソケットの出っ張りの方向があっていることを確認し、増設RAMボードをソケットに差し込みます。下図の３カ所(A、B、C)がズレていないことを確認してください。

2つあるソケットのうち、どちらのソケットからでも取り付けられます。



② 上図3カ所が合っていることを確認し、増設RAMボードを押し下げます。増設RAMボードの左右2カ所にある穴から、コネクタの突起が見えることを確認してください。





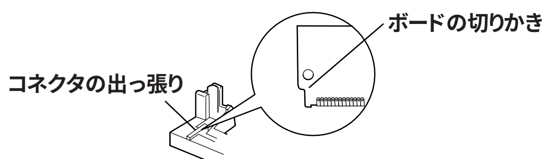
禁 止

増設RAMボードコネクタ、または内部増設RAMボードのエッジ部にホコリ、ゴミが付着している状態で取り付けないでください。

故障・破損・焼損の原因となります。

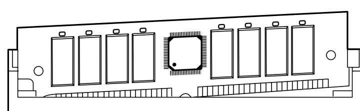


逆向きに取り付けないでください。
故障・破損・焼損の原因となります。





斜めに取り付けないでください。
故障・破損・焼損の原因となります。



ハードディスクドライブの取り付け（交換）





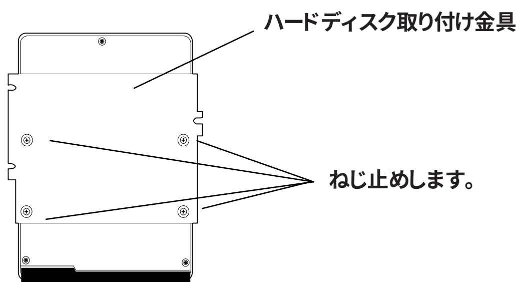
作業の前に、必ずパソコンの電源をOFFにし、コンセントからプラグを抜いてください。

構造上本機に内蔵できるハードディスクドライブ（以降HDDと表記します）は1台のみです。IDEタイプのHDDを内蔵します。
HDDユニットの取りはずしは以下の逆の手順で行います。



① **HDDユニットの設定を確認します。**
HDDのジャンパブロックでシングルに設定します。設定の方法は、HDDの取扱説明書をご覧ください。

② **HDDの基板面にMVK付属の取付金具を付属のネジ4本で取り付けます。**

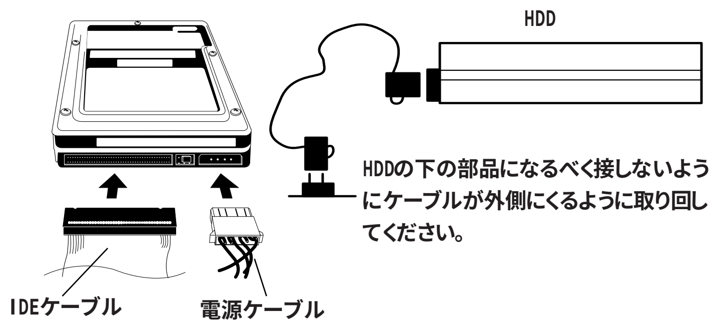


③ **付属のIDEケーブルをマザーボードのコネクタに、1ピンどうしを合わせて接続します。**
IDEケーブルの1ピン側には色が付けてあります。IDEコネクタの1ピンには、マザーボード上に数字の1がプリントされています。

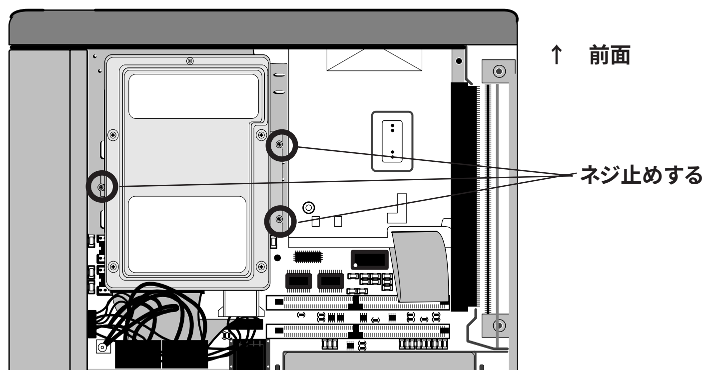
④ 1ピンどうしを合わせて、HDDのIDEコネクタにIDEケーブルを差し込みます。

HDDのIDEコネクタの1ピンはHDDの基板に数字の1がプリントされています。

⑤ HDDの電源コネクタに電源ケーブルを差し込みます。



⑥ HDD取付金具を下にして、付属の3本のネジでケースに固定します。

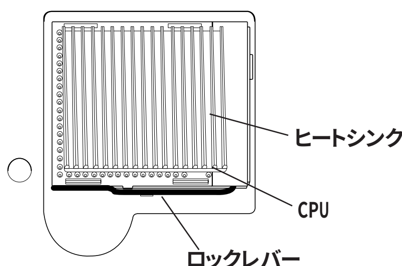


CPUの交換(ヒートシンクの取り付け)

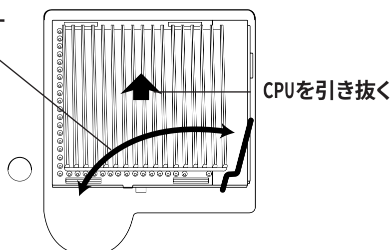
本機は、AM5x86-P75(装着済・133MHz)、AMD 486DX4-100/200に対応しています。
CPUを交換する前に、お使いになるCPUに合わせてシステムクロックなどのジャンパ設定を行ってください。詳しくは、「ジャンパ設定の項」(P.48)をご覧ください。



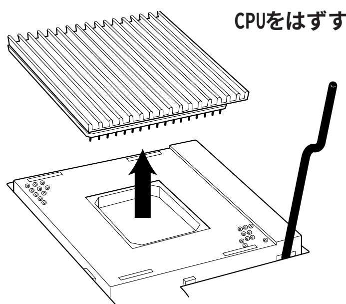
① HDDが内蔵されている場合は、HDD取付金具を固定しているネジ3本をはずし、HDDを一度外してCPUが取りはずせるようにします。



② CPUソケットのロックレバーを起こします。



③ CPUソケットからCPUを取りはずします。





作業の前に、必ずパソコンの電源をOFFにし、コンセントを抜いてでください。



禁止

CPUのコネクタやピンなどの金属部分に素手で触れないようにしてください。

静電気破壊や接触不良などの故障の原因になることがあります。



注意

動作直後のCPUは熱くなっていますので、CPUを交換するときは、熱が冷めてから行ってください。



強制

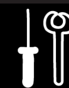
CPUには、放熱のためのヒートシンクを必ず取り付けてください。

ヒートシンクがないとパソコンが動作しなくなるだけでなく、故障の原因となります。



強制

静電気による破壊を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属(ドアノブやアルミサッシなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。
人体などからの静電気は、本製品を破損させる恐れがあります。



④ **新しいCPUヒートシンクを取り付けます。**

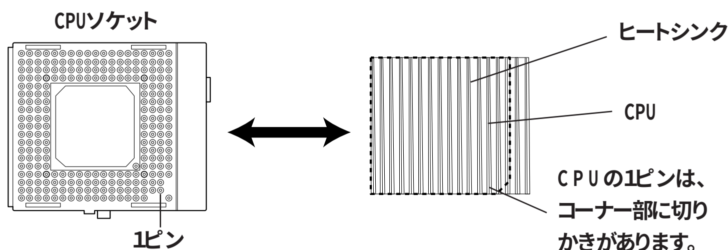
ヒートシンクは高さが3㎜のものを使用してください。
実装済のCPUからヒートシンクをはがして使用できますが、このときはヒートシンクの装着面にゴミが残らないようにテープをはがした後、新しい耐熱両面テープで貼り付けてください。



注 意

CPUをCPUソケットから抜き差しするときにはほとんど力はいりません。
CPUがソケットに差し込めなかったり、抜けないときは、CPUの１番ピンがソケットの１番ピンと合っているか、ソケットのロックレバーがロックされかかっていないか確かめてください。

⑤ **CPUの1番ピンとCPUソケットの1番ピンの位置を合わせ、CPUをCPUソケットに差し込みます。**



⑥ **CPUソケットのロックレバーを押し下げて、CPUを固定します。**

⑦ **HDDを元のように固定します。**

拡張スロット用カードの取り付け



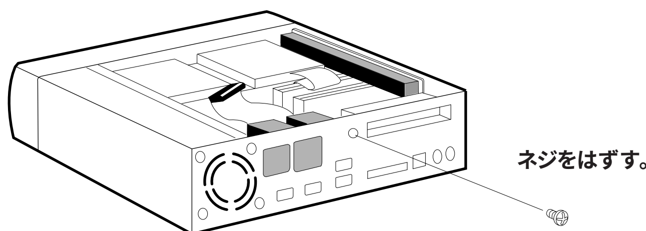
注 意

拡張カードやライザーカードの端子部分には触れないようにしてください。
故障や接触不良の原因になります。

本機には構造上、奥行き162㎜，部品実装高さ11㎜を超えるISAカードは内蔵できません。カードをお選びになるときには、カードのサイズにご注意ください。



① **リアパネルのネジ1本をはずし、拡張スロットケースをはずします。**

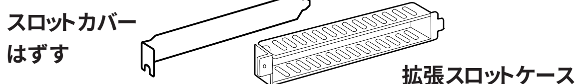




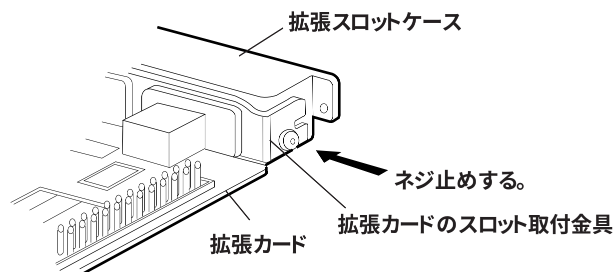
注 意

静電気による破壊を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。
人体などからの静電気は、本製品を破損させる恐れがあります。

② **拡張スロットケースのネジ1本をゆるめ、スロットカバーをはずします。**

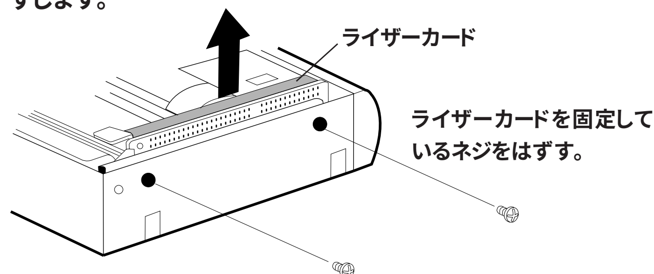


③ 拡張カードのスロット取付金具に拡張スロットケースをネジ1本で取り付けます。



④ 左側面の穴からプラスドライバを差し込み、ライザーカード固定用のネジを2本はずします。

⑤ ライザーカードを上向きに引っ張り、マザーボードのコネクタからはずします。



⑥ ライザーカードのコネクタに拡張カードを差し込みます。

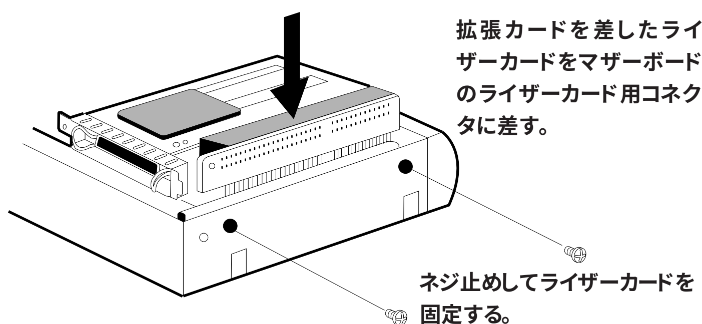
⑦ 拡張カードが差し込まれた状態のライザーカードをマザーボードのコネクタに垂直に差し込みます。



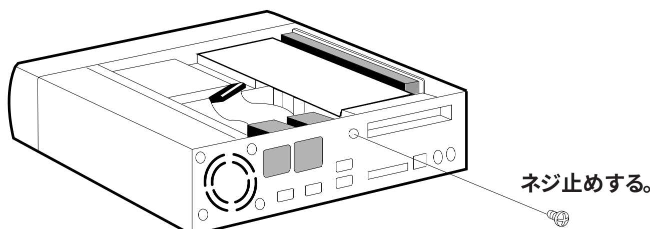
注意

ライザーカードにはボードがカバーとショートしないように、絶縁フィルムが貼り付けてあります。安全のため、必ず貼り付けたままご使用ください。

⑧ ライザーカードをネジ2本で固定します。



⑨ 拡張スロットケースをネジ1本でリアパネルに固定します。



ケースの取付

ケースを取り付ける前に、ケース内部にネジやゴミなど不要なものが落ちていたり、残っていたりしていないか、よく確かめてください。



注 意

感電やコンピュータ内へのゴミやホコリの侵入を防止するために、必ずケースを取り付けた状態で使用してください。



① 分解と逆の手順で、フロントパネル側を持ち、本体を背面から静かにケースに挿入します。ケーブルが挟まったりしないように注意深く作業してください。

② リアパネルにケースを固定するネジ3本を取り付けます。

動作確認

次の点を確認してから電源スイッチをONにしてください。

- 接続は間違いありませんか。
- コネクタはきちんと奥まで差し込まれていますか。ゆるみはありませんか。
- ケースの中にネジなどの異物が落ちたままになっていませんか。
- バススロットはきちんと固定されていますか。
- 拡張カードはきちんと差し込まれていますか。ゆるみはありませんか。



注 意

画面に何も表示されないなど問題があるときは、すぐに電源をOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いて、ケース内に異常な煙やにおいが発生していないかどうか確かめて、トラブルシューティング(P.90)をご覧ください。

Windows95

Windows95のシステムインストール

Windows95のインストールには、アップグレードパッケージではない通常版パッケージのDOS/V対応のWindows95システムディスクをご用意ください。

インストールする前に、必要な周辺機器が接続されていることを確認してください。



① **本機の電源スイッチをONにします。**

システムのチェックが終了すると、次のメッセージが表示されます。

DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER

② **Windows95の起動ディスクをフロッピードライブにセットし、Enterキーを押します。**

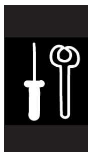
しばらくして、キーボードの種類を判別するためのメッセージが表示されます。

③ **お使いのキーボードに合わせて、該当するキーを押します。**

109／106キーボードの場合は、全角／半角キー、101キーボードの場合はスペースキーを押してください。

④ **Windows95のセットアップが開始されます。**

以降画面の表示に従って、ディスクの入れ替えなどの操作を行ってください。詳しい操作方法は、Windows95に付属するマニュアルのセットアップに関する項目をご覧ください。



ディスプレイドライバのインストール

ディスプレイドライバのインストールは、付属のインストールプログラムSETUP.EXEで行います。



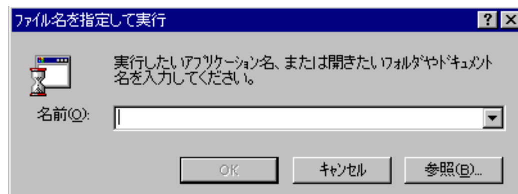
① **本機の電源をONにし、Windows95を起動します。**
このセットアッププログラム以外のプログラムが起動していれば、そのプログラムを終了させてください。

② **付属のディスプレイドライバ(Windows95)をフロッピーディスクドライブにセットします。**

③ **[スタート]ボタンをクリックします。通常は画面の左下すみにあります。**
スタートメニューが表示されます。

④ **メニューの中から[ファイル名を指定して実行(R)]をクリックします。**
ファイル名を指定して実行のダイアログが表示されます。

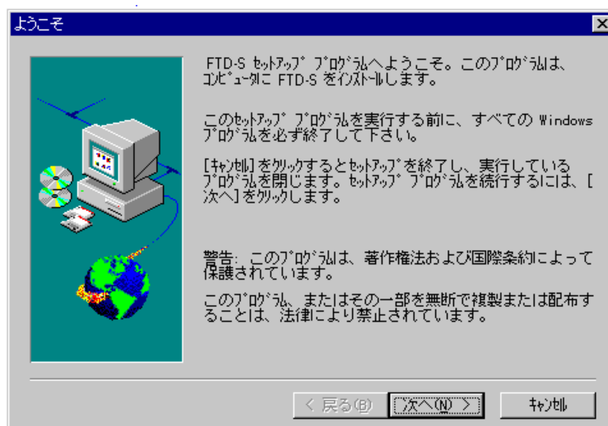
⑤ **コマンドラインに「A:\SETUP.EXE」と入力し、[OK]をクリックします。**



⑥ **[OK]ボタンをクリックします。**
フロッピーディスクのSETUP.EXEが起動します。



次に、セットアップウィザードが起動して次のダイアログが表示されます。



⑦ **[次へ(N)]をクリックします。**

FTD-Sセットアップダイアログが表示されます。



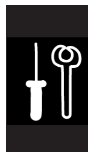
⑧ **[次へ(N)]をクリックします。**

インストール先を変更するときは、[参照]ボタンをクリックしてフォルダを選択します。

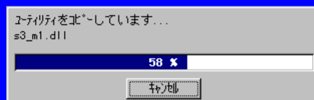
⑨ **「フォルダの選択」ダイアログが表示されます。追加するフォルダを変更するときは、新しいフォルダ名を入力するか、「既存のフォルダ」ボックスの中から選択します。**

⑩ **[次へ(N)]をクリックします。**

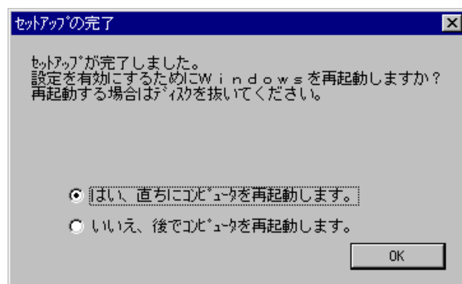
ファイルの転送が開始されます。







転送が終了すると、次のダイアログが表示されます。



⑪ **ディスプレイドライバの設定は、Windows95を再起動するまで有効になりません。フロッピーディスクドライブからドライバディスクを取り出し、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選択して、[OK]ボタンをクリックしてください。**

LANボードドライバのセットアップ

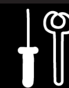
・ Windows95が動作している環境に対して、「WEB」「簡単WEB」「NetWare4.1Jクライアント」のインストールを行わないでください。インストール後にWindows95が起動できないなどの問題が発生します。

・ 「WEB」「簡単WEB」「NetWare4.1Jクライアント」が動作中のシステムにWindows95のセットアップを行わないでください。セットアップが正常に終了しないなどの問題があります。

・ Windows95のネットワークとWindows3.1またはMS-DOSのパソコンにインストールした「WEB」「簡単WEB」や「NetWare4.1Jクライアント」を接続することはできません。

Windows95はプラグアンドプレイに対応するOSです。

接続している周辺機器の設定を読みとり、適切なリソース(I/Oポートアドレス、割り込みレベル)を割り振ります。しかし、Windows95側で設定情報が認識されない機器を接続している場合、正しく認識されないことがあります。この場合はWindows95のデバイスマネージャまたはBIOSセットアップユーティリティーで設定を変更する必要があります。BIOSセットアップユーティリティーについて本書、「BIOSのセットアップ」(P.73)の項をご覧ください。



Windows95システムのインストール時に内蔵のLANボードを検出して自動的にネットワークドライバをインストールします。そのため、ドライバのインストールは必要ありません。ただし、本機のフロントパネルのLAN-LEDを正しく表示させるために設定の変更だけを行います。



① **[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]をクリックします。**

コントロールパネルが開きます。



② [システム]アイコンをダブルクリックします。

③ [デバイスマネージャ]タブをクリックします。

④ ネットワークアダプタの左の⊞をクリックします。



⑤ [AMD PCNET Family Ethernet Adater(PCI & ISA)]をクリックします。

⑥ [プロパティ(R)]ボタンをクリックします。

⑦ [情報]タブの「デバイスの使用」で、それぞれのチェックボックスにチェックを付けます。



□ **このハードウェア環境で使用不可にする**

デバイスを使用しないときはこちらをチェックします。

□ **すべてのハードウェア環境で使用する**

デフォルトではこちらだけにチェックされています。
こちらがチェックされている状態でネットワークを使用しなくても問題はありません。

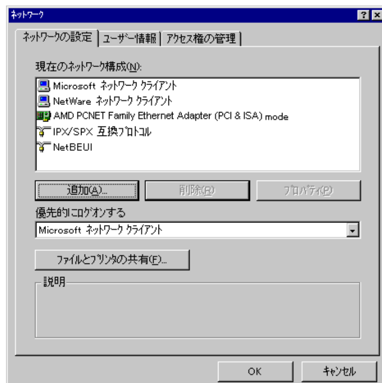
⑧ [OK]ボタンをクリックします。

⑨ [閉じる](設定を変更しないときは[OK])ボタンをクリックします。

[コントロールパネル]に戻ります。

[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

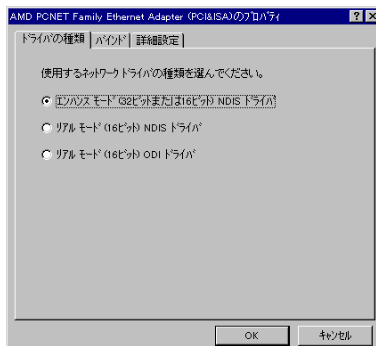
⑩ コントロールパネルの[ネットワーク]のダイアログが表示されます。



⑪ 「AMD PCNET Family Ethernet Adater(PCI & ISA)」をクリックします。

⑫ [プロパティ(R)]ボタンをクリックします。

「AMD PCNET Family Ethernet Adater(PCI & ISA)のプロパティ]が開きます。



⑬ [詳細設定]のタブをクリックします。

⑭ 「プロパティ」のボックスのLED0をクリックします。

⑮ 右側の「値」のコンボボックスから「C0」を選択します。

なお、すでに設定されていれば変更の必要はありません。

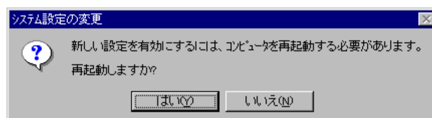




⑯ **同じ要領で、LED1をB0、LED2を4088、LED3を81、TPをONに設定します。**

⑰ **[OK]ボタンをクリックしてプロパティを閉じます。**
ネットワークダイアログに戻ります。

⑱ **[OK]ボタンをクリックします。**
設定を変更すると、次のダイアログが表示されます。



変更した内容は、コンピュータを再起動してから有効になります。

⑲ **[はい(Y)]ボタンを選択して、コンピュータを再起動してください。**

以上で、Windows95の設定は終了です。

Windows95のマシン同士をピア・ツー・ピアで接続するときの設定例

詳しくはWindows95　ファーストステップガイドの「第3章ネットワークの知識」を参照してください。

設定の前に

[コントロールパネル]－[ネットワーク]－[現在のネットワーク構成]の中にNet BEUIが組み込まれていることを確認してください。



① **[コントロールパネル]－[ネットワーク]を開き、「追加」をクリックします。**

② **[ネットワーク構成ファイルの追加]の中で「プロトコル」をクリックしてから「追加」をクリックします。**

③ **[ネットワークプロトコルの選択]の中で「製造元」はMicrosoft、「ネットワークプロトコル」はNetBEUIを選択し、[OK]をクリックします。**

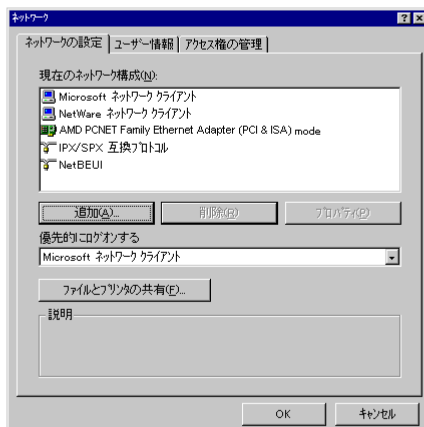
④ **手順②の画面に戻りますので、[OK]をクリックして終了します。**

⑤ **パソコンを再起動します。**

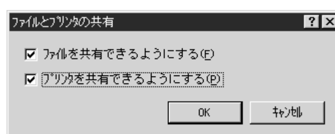
設定方法

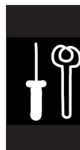


① **[コントロールパネル]－[ネットワーク]の中の[ファイルとプリンタの共有]ボタンをクリックします。**

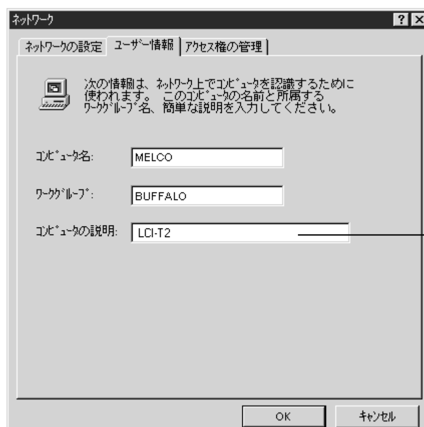


② [ファイルとプリンタの共有]の「ファイルを共有できるようにする」および「プリンタを共有できるようにする」のチェックボックスをチェックして、[OK]をクリックします。





③ [コントロールパネル]－[ネットワーク]の中の[ユーザ情報]タブをクリックして、[コンピュータ名][ワークグループ]および[コンピュータの説明]に入力します。ワークグループ名は、ピア・ツー・ピア接続するパソコン間で同じ名前にしてください。

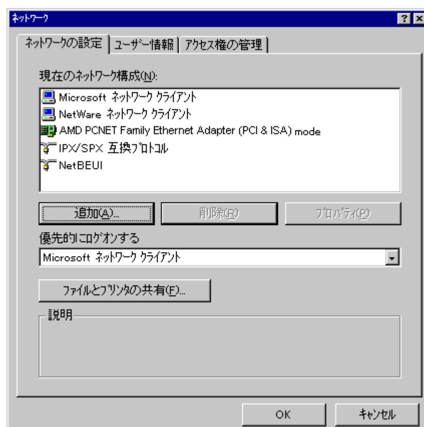


[コンピュータ名]にはパソコンごとに別々の名前を登録してください。

任意に入力

④ [OK]をクリックすると「再起動しますか」とメッセージが表示されるので[はい]をクリックします。

⑤ 再起動後、[コントロールパネル]－[ネットワーク]を選択し、現在のネットワーク構成のところに少なくとも「Microsoft ネットワーククライアント」、「AMD PCNET Family Ethernet Adapter (PCI & ISA)」、「Net BEUI」、「Microsoftネットワーク共有サービス」がインストールされていることを確認してください。



⑥ フォルダ(フォルダとそのフォルダ内のファイル)の共有を設定する場合、[マイコンピュータ]などから共有したいフォルダのあるウィンドウをオープンします。



⑦ 共有したいフォルダをマウスの右ボタンでクリックして選択し、ショートカットメニューから[共有]を選択します。選択するとそのフォルダの[プロパティ]ダイアログが次のように表示されます。



[共有する(S)]を選択します。アクセス権の種類を選択し、必要があればパスワードの入力を行います。

⑧ **[OK]をクリックします。**

LANボードのMACアドレスについて

LANボードのMACアドレス(イーサネットアドレス)を確認する手順

ネットワークプロトコルにTCP/IPプロトコルが組み込まれている場合は、次の手順でMACアドレスを確認できます。



① **[スタート]－[プログラム]から[エクスプローラ]を起動します。**

② **「Windows」フォルダの中の「WINIPCFG.EXE」をダブルクリックします。**

③ **「IP設定」の画面が表示されます。MACアドレスは「アダプタアドレス」に表示されている値です。**





Windows3.1

Windows3.1システムのインストール

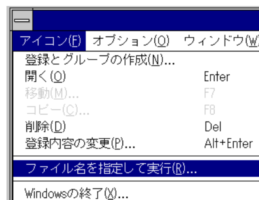
Windows3.1のインストールには、MS-DOSのシステムディスクとWindows3.1のシステムディスクが必要です。最初にDOSをインストールしてから、Windows3.1をインストールします。操作手順は、DOSに添付されるマニュアルのセットアップに関する項目をご覧ください。

Windows3.1、ディスプレイドライバのインストール

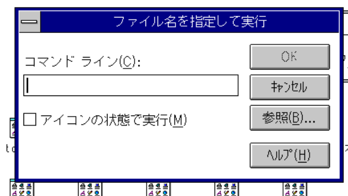


① **ウィンドウ・アクセラレータ・ドライバFDをフロッピーディスクドライブにセットします。**

② **アイコンメニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。**



③ **ファイル名を指定して実行ダイアログが表示されます。**



④ **コマンドラインにA:SETUP.EXEが表示されます。**

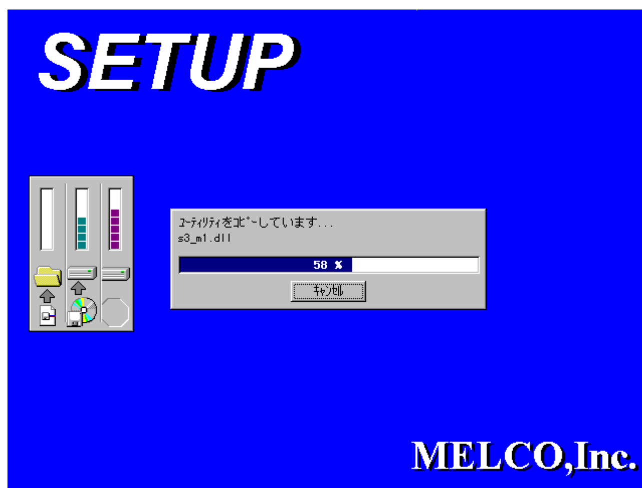
⑤ **[OK]をクリックします。**
フロッピーディスクのSETUP.EXEが起動します。

⑥ **「FTD-Sセットアップ」のダイアログが表示されます。FTD-Sユーティリティーのインストール先を指定します。インストール先を変更するときは、新しいディレクトリ名を入力します。**



⑦ [実行]ボタンを押します。

ドライバの転送が開始されます。



ドライバの転送が終了するとWindows3.1画面の設定の手順②になります。

[実行]ボタンをクリックすると終了します。

以上でドライバのインストールは終了です。



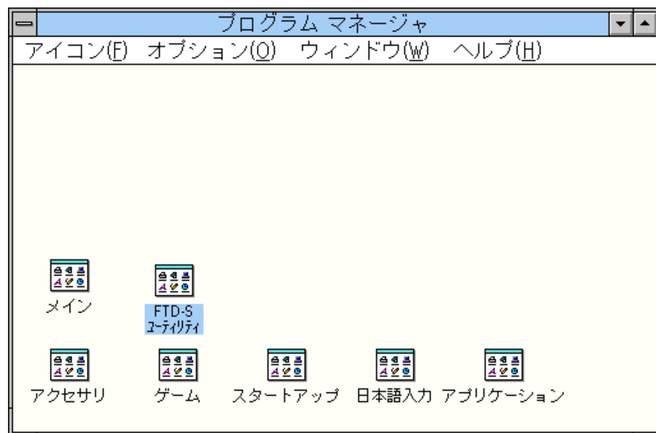
Windows3.1、画面の設定

ディスプレイドライバユーティリティープログラムで行います。

解像度の設定

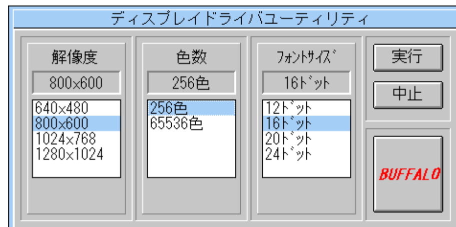


① **プログラムマネージャの「FTD-Sユーティリティー」グループのアイコンをダブルクリックします。**



② **ディスプレイドライバユーティリティーのアイコンをダブルクリックします。**

ディスプレイドライバユーティリティーが起動します。



③ **画面解像度、表示色数、フォントサイズを選択します。**

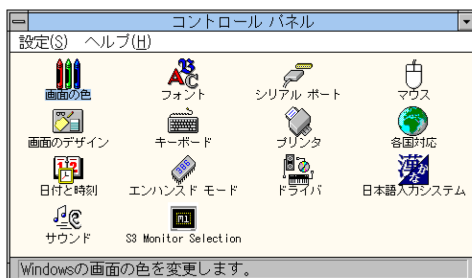
④ **[実行]ボタンをクリックします。**

ディスプレイの選択

モニターセレクションユーティリティーで行います。

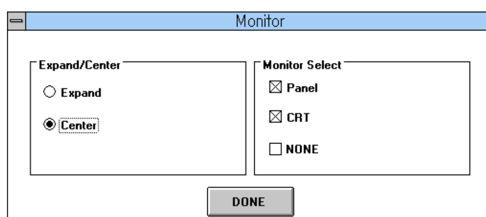


① **プログラムマネージャの[メイン]グループから[コントロールパネル]をダブルクリックします。**



② **[S3 Monitor Selection]をダブルクリックします。**

Monitorダイアログが表示されます。





Expand/Center

640×480ドットの画面表示方法を設定します。ExpandまたはCenterのどちらかを選択します。

［Expand］：640×480ドットを画面いっぱいに表示します。

［Center］：800×600ドットの解像度で、画面中央に小さめに表示されます。

Monitor Select

使用するディスプレイを選択します。二つのディスプレイに同時に表示させることもできます。表示内容はどちらも同じです。

接続されていないディスプレイのみを選択すると、ウィンドウ操作できなくなりますのでご注意ください。

［Panel］：LCDディスプレイ

［CRT］：CRTディスプレイ

③ **お使いになるディスプレイを選択します。**

④ **[DONE]ボタンをクリックします。**

注）Windows3.1では、Duo View機能はありません。

LANボードドライバのインストールと設定

Windows3.1やDOSでのネットワークのインストールには、付属のドライバディスクを使用します。
使用するネットワーク環境に合わせて、必要なドライバをインストールしてください。インストールの方法、設定、使用方法は、別冊「**LANセットアップガイド**」をご覧ください。

- **LANボード設定プログラム：**
  LANボードが使用するハードウェアリソースの表示とNetWare用の設定ファイルを作成するプログラムです。
- **ODIドライバ：**
  NetWare 3.12J／ 3.11JのLAN環境で、クライアントのDOS上でLANボードを動作させ、サーバと接続するためのドライバです。
- **IPXドライバ：**
  NetWare 3.11JのLAN環境で、クライアントのDOS上でLANボードを動作させ、サーバと接続するためのドライバです。
- **NetWare サーバドライバ：**
  NetWare 4.1J／3.12J／ 3.11JのサーバとしてLANボードを動作させるときのドライバです。
- **パケットドライバ：**
  米国FTP Software社が提案し、クラークソン大学で開発されたフリーソフトウェア。パケットドライバに対応したアプリケーションが利用できます。
- **NDISドライバ2.01：**
  データリンク層とLANボードの通信に関して、マイクロソフト社と3Com社が定めたインターフェイス規約。マイクロソフトLANマネージャおよびNDISドライバ対応の各種アプリケーションを利用できます。
  マイクロソフトWindowsNT Server3.5に添付のLANマネージャクライアントソフトウェアを使用することにより、WindowsNT Serverに接続することができます。
- **NetWare Lite J：**
  NetWare Lite Jを使用するとき
- **Personal NetWare J：**
  Personal NetWare Lite Jを使用するとき
- **NDISドライバ(3.0)：**
  WindowsNT 3.5対応のNDISドライバです。

5.BIOSのセットアップ



BIOSのセットアップとは、HDDやFDD、拡張カードの状態などのシステム環境をパソコンに登録する作業です。システム導入や増設・拡張などの際に行います。日常に使用時は設定の必要はありません。消費電力の小さなCMOSメモリに記憶させることからCMOSセットアップと呼ぶこともあります。メモリはバッテリでバックアップされていますので、電源を切っても設定内容は保存されます。通常の環境では約3年間設定内容が保持されます。ただし、高温・多湿の環境でご使用になるとバッテリの消耗が早くなります。バッテリがなくなり、設定内容が保持されなくなったときは、CR2032ボタン型バッテリを購入し、交換してください。

不用意に誤った設定をしてしまうと、システムが起動しなくなるなど運用上の障害になることがあります。特に使用する機器のOS、アプリケーションの指定がないかぎり、設定は本書に従ってください。



セットアッププログラムの起動方法

電源をONにすると、パソコンはOSをブート(読み込み)する前にシステムの状態をチェックします。これをPOST(Power On Self Test)といいます。POSTの実行中、画面の下部に次のメッセージが表示されます。

```
TO ENTER SETUP BEFORE BOOT PRESS CTRL-ALT-
ESC OR DEL KEY
```

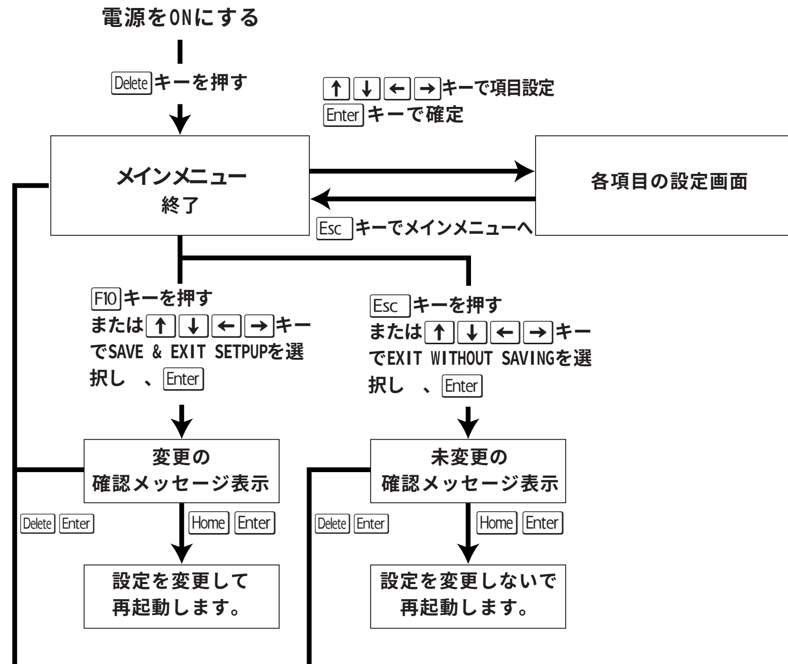
BIOSセットアッププログラムを開始するには、上記のメッセージが表示されている間に、Deleteキーを押すか、またはCtrlキー、Altキー、Escキーを同時に押します。
キーを押すタイミングが遅れると、次のメッセージが表示されることがあります。

```
PRESS F1 TO CONTINUE, CTRL-ALT-ESC OR DEL
TO ENTER SETUP
```

上記メッセージが表示された場合でも、BIOSセットアッププログラムを開始するために、Deleteキーを押すか、またはCtrlキーとAltキー、Escキーを同時に押してください。
POSTが終了し、OSのブートが開始されるとBIOSセットアッププログラムは開始できません。
開始し損じたときは、OSを終了させ、システムを再起動します。または、パソコンの電源をいったんOFFにし、再度ONにします。このとき、OFFにしてすぐにONにするとパソコンの故障の原因となりますので、OFFにしたら5秒程度待ってからONにしてください。OSを正常終了させずにいきなり電源を切るなどすると、OSが起動しなくなることがあります。

セットアッププログラムの操作方法

セットアッププログラムは、表示されるメニュー項目の中から変更する項目を選び、選択肢の中から設定値を選ぶ操作がほとんどです。



BIOSのセットアップ



次のような簡単なヘルプ機能がついています。ただし説明はすべて英文です。

- メインメニューでは選択している項目の機能が画面の下部に表示されます。
- ステータスページセットアップメニュー、オプションページセットアップメニューでは F1 キーを押すと、ヘルプウィンドウが表示されます。現在選択されている項目で使用できるキー操作と可能な選択肢の説明が表示されます。ヘルプウィンドウを閉じるには、Esc キーを押します。

BIOSセットアップに使用するキーは以下のとおりです。

↑	直前の項目に移動する
↓	次の項目に移動する
←	左側の項目に移動する
→	右側の項目に移動する
Esc	メインメニューでは、設定内容を保存せずに終了する／メインメニュー以外では、メインメニューに戻る
Enter	別の設定数値や選択肢を表示する
F1	オンラインヘルプ（ただし英文です）を表示する メインメニュー以外でのみ有効
F2	16色の中から表示色を変更する
F3	カレンダーを表示する。メインメニュー以外でのみ有効
F5	BIOSからCMOSの直前回の設定値を読み込む オプションページセットアップメニューでのみ有効
F6	BIOSからデフォルトのCMOS設定値を読み込む オプションページセットアップメニューでのみ有効
F7	選択されているメニュー項目のデフォルト値を読み込む
F10	すべてのCMOS設定の変更を保存する メインメニューでのみ有効

メインメニュー

BIOSセットアッププログラムを開始して最初に表示されるのが、以下のメインメニューです。ハイライト表示されている項目が現在選択されている項目です。矢印キーで項目を移動します。Enterキーを押すと、それぞれのメニューが表示されます。

ROM PCI/ISA BIOS (2A4IBA3N)
CMOS SETUP UTILITY
AWARD SOFTWARE, INC.

STANDARD CMOS SETUP BIOS FEATURE SETUP CHIPSET FEATURES SETUP POWER MANAGEMENT SETUP PCI/IDE CONFIGURATION SETUP LOAD SETUP DEFAULTS	SUPERVISOR PASSWORD USER PASSWORD IDE HDD AUTO DETECTION HDD LOW LEVEL FORMAT SAVE & EXIT SETUP EXIT WITHOUT SAVING
Esc : Quit F10 : Save & Exit Setup	↑ ↓ ←→ : Select Item (Shift) F2 : Change Color
AT Clock, DRAM timings.....	

以下、メニューごとに説明します。



STANDARD CMOS SETUP

パソコンを使用する上で最も基本となる設定項目です。パソコンのシステムカレンダー、IDEタイプのHDD、FDD、メモリ、ビデオカードを設定できます。

ROM PCI/ISA BIOS (2A4IBA3N)
STANDARD CMOS SETUP
AWARD SOFTWARE, INC

Date(mm:dd:yy) :Wed,Dec 28 1994
Time(hh:mm:ss) :10:31:55

HARD DISKS		TYPE	SIZE	CYLS	HEAD	PRECOMP	LANDZ	SECTOR	MODE
Primary Master	:	Auto	0	0	0	0	0	0	Auto
Primary Slave	:	None	0	0	0	0	0	0	----

Drive A : 1.44M, 3.5 in
Drive B : None

Video : EGA/VGA
Halt On : All errors

Base Memory :	640K
Extended Memory :	7168K
Other Memory :	384K
Total Memory :	8192K

ESC	: Quit	↑↓→←	: Select Item	PU/PD/+/-	: Modify
F1	: Help	(Shift)F2	: Change Color		

Date、Time

システムカレンダー、タイマーを設定します。

HARD DISKS

マザーボード上のIDEコネクタに接続されたHDDの設定を行います。
Autoを選ぶとBIOSが接続されたHDDを自動検出します。
本機は3.5"IDEファイルベイは1つですから、Primary Masterのみ使用可能です。Primary SlaveはNoneとしてください。

Drive A、Drive B

フロッピーディスクドライブの設定を行います。
FDの容量、サイズを指定します。
本機では、Aドライブに1.44MB、3.5インチが設定されています。
Bドライブは接続されていませんので、Noneとしてください。

Video

ビデオカードの種類を設定します。
EGA/VGAを指定してください。

Halt On

エラー発生時に実行を停止します。
通常は,All Errorsを選択します。

メモリ

内蔵されているメモリの容量を表示します。

BIOS FEATURE SETUP

BIOSの拡張機能を設定します。

ROM PCI/ISA BIOS (2A4IBA3N)
BIOS FEATURE SETUP
AWARD SOFTWARE, INC

Virus Warning	: Disabled	Video BIOS Shadow	: Enabled
CPU Internal Cache	: Enabled	C8000- CFFFF Shadow	: Disabled
Quick Power On Self Test	: Disabled	D0000-D7FFF Shadow	: Disabled
Boot Sequence	: A, C	D8000- DFFFF Shadow	: Disabled
Boot Up Floppy Seek	: Enabled		
Boot Up NumLock Status	: On		
Boot Up System Speed	: High		
Gate A20 Option	: Fast		
Typematic Rate Setting	: Enabled		
Typematic Rate (Chars/Sec)	: 30		
Typematic Delay (Msec)	: 250		
Security Option	: Setup		
PCI/VGA Palette Snoop	: Disabled		
OS Select for DRAM>64MB	: Non-OS2		
		Esc : Quit	↑↓←→: Selection Item
		F1 : Help	PU/PD/+/- : Modify
		F5 : Old Values	(Shift) F2 : Color
		F6 : Load BIOS Default	
		F7 : Load Setup Default	



Virus Warning

Enabledにすると、ウィルスチェックを行います。

Disabledにするとウィルスチェックは行われません。

通常はDisable(行わない)で使用してください。OSのインストールでは、必ずHDDのブートセクタに情報が書き込まれます。このためウィルスチェックプログラムが誤認し、WARNING(警告)を表示してしまいます。

通常は、Disableとしてウィルスのチェックについては0S付属のものや市販のウィルスチェックプログラムの使用をおすすめします。

CPU Internal Cache

通常はEnabledでご使用ください。CPUの内部キャッシュが有効になり、スピードアップします。

Boot Sequence

OSをブートするドライブの優先順位を設定します。

A、Cでご使用ください。

このとき、FD(Aドライブ)からブートします。FDがセットされていなければ、HD(Cドライブ)からブートします。デフォルトはこの設定になっています。

Boot Up Floppy Seek

POST実行中に装着されているFDが40トラックであるか80トラックであるかをチェックします。360KBタイプのFDのみが40トラック、それ以外は80トラックと認識されます。

- **Enabled**

パソコンの起動時にフロッピーディスクがセットされているかどうかをチェックします。

- **Disabled**

パソコンの起動時にフロッピーディスクの状態をチェックしません。

Gate A20 Option

1MB以上のメモリにアクセスするためには、CPUのアドレスラインのA20番以降を制御する必要があります。Fastでご使用ください。

Video BIOS Shadow

起動時にビデオBIOSをメインメモリにコピーし、通常はコピーされたメインメモリのBIOSにアクセスします。これを「ビデオBIOSをShadows化する」といいます。表示速度が向上します。

通常は初期値のままでお使いになることをお薦めします。

C8000-CFFFF Shadow／D0000-D7FFF Shadow／D8000-DFFFF Shadow

起動時に以上のメモリ領域をメインメモリにコピーし、通常の動作時にはメインメモリにコピーされた内容を使います。これを「メモリをShadows化する」といいます。動作速度が向上します。ISAインターフェースで、BIOSを搭載しているボード（SCSIボード等）では、設定が必要な場合があります。ボードのマニュアルを参照してください。

CHIPSET FEATURE SETUP

チップセットの機能を設定します。出荷時にシステムに最適な状態にセットアップされていますので、とくに必要のない限り変更しないでください。通常は、環境設定を自動的に行う／行わないを指定する[Ａｕｔｏ Configuration]の項目を[Enabled](出荷時設定)にしてご使用ください。

ROM PCI/ISA BIOS (2A4IBA3N)
CHIPSET FEATURES SETUP
AWARD SOFTWARE, INC

Auto Configuration	: Enabled	Onboard FDD Controller	: Enabled
DRAM Speed	: Faster	Onboard Serial Port 1	: Auto
DRAM Slow Refresh	: Disable	Onboard Serial Port 2	: Auto
		Onboard Parallel Port	: 378/IRQ7
CPU Burst Write	: Disable	Onboard Parallel Mode	: Normal
		Esc : Quit	↑↓←→ : Selection Item
		F1 : Help	PU/PD/+/- : Modify
		F5 : Old Values	(Shift) F2 : Color
		F6 : Load BIOS Default	
		F7 : Load Setup Default	

Auto Configuration

- **Enabled**
  チップセットの機能を自動的に設定します。通常はこの設定で使用します。
- **Disabled**
  チップセットの機能をユーザー自身が設定します。

Onboard FDD Controller／Onboard Serial Port 1／Onboard Serial Port 2／Onboard Parallel Port 1／Onboard Parallel Mode

マザーボード上のインターフェイスの設定です。通常はデフォルト値のままご使用ください。

BIOSのセットアップ



POWER MANAGEMENT

省電力に関する設定を行います。

通常は、出荷時設定から変更しないでご使用ください。

ROM PCI/ISA BIOS (2A4IBA3N)
POWER MANAGEMENT SETUP
AWARD SOFTWARE, INC

Power Management	: disable	IRQ4 (COM1)	: Enable
PM Control by APM	: Yes	IRQ5 (LPT2)	: Enable
Video off Option	: Susp, Stby ->Off	IRQ6(Floppy Disk)	: Enable
Video off Method	: V/H SYNC+Blank	IRQ7(LPT1)	: Enable
Suspend switch	: Enable	IRQ8(RTC Alarm)	: Disable
PM Timers		IRQ9 (IRQ2 Redir)	: Enable
HDD Off After	: Disable	IRQ10 (Reserved)	: Enable
Standby Mode	: Disable	IRQ11 (Reserved)	: Enable
Suspend Mode	: Disable	IRQ12 (PS/2 Mouse)	: Enable
HDD Power Down	: Disable	IRQ13 (Coprocessor)	: Enable
PM Events		IRQ14 (Hard Disk)	: Enable
PCI Master Activity	: Enable	IRQ15 (Reserved)	: Enable
CO Ports Activity	: Enable	ESC : Quit	↑↓→← : Select Item
LPT Ports Activity	: Enable	F1 : Help	PU/PD/+/- : Modify
HDD Ports Activity	: Enable	F5 : Old Values	(Shift)F2 : Color
DMA Ports Activity	: Enable	F6 : Load BIOS Defaults	
VGA Activity	: Disable	F7 : Load Setup Defaults	
IRQ3 (COM2)	: Enable		

Power Management

- **Disable**
  システム全体の省電力設定を無効にします。
- **User Define**
  ユーザー独自の省電力設定を行います。
- **Min Saving**
  省電力の設定を行いますが省電力効果は最小の設定とします。
- **Max Saving**
  省電力の設定を行います。省電力効果は最大に設定します。

PCI/IDE CONFIGURATION SETUP

PCIに関する設定を行います。

ROM PCI/ISA BIOS (2A4IBA3N)
PCI/IDE CONFIGURATION SETUP
AWARD SOFTWARE, INC.

PnP BIOS Auto-Config : Enabled Slot 1 Using INT# : AUTO Slot 2 Using INT# : AUTO PCI IRQ Actived By : Edge PCI IDE IRQ Map To : PCI-AUTO Primary IDE INT# : A Secondary IDE INT# : B	Onboard 496B IDE Port : Primary IDE 0 Master Mode : Autoer IDE 0 Slave Mode : Autoer IDE HDD Block Mode : Enabled
	ESC : Quit ↑↓←→ : Select Item F1 : Help PU /PD / + / - : Modify F5 : Old Values (Shift)F2 : Color F6 : Load BIOS Defaults F7 : Load Setup Defaults

PnP BIOS Auto-Config

プラグ&プレイBIOSを有効にするか無効にするかを設定します。通常は有効(Enabled)にします。

Slot 1 Using INT#/•Slot 2 Using INT#

ボード内部のPCIバスが持つINT A～Dまでの4個を割り込みを指定します。「Auto」を指定すると自動的に設定されます。通常は「Auto」を指定します。

PCI IRQ Activated By

ボード内部のPCI バスの割り込みの設定方法を指定します。通常は初期値でお使いください。

PCI IDE IRQ Map To

BIOSが、PCI IDEデバイスを検出するスロットを指定できます。
検出対象のスロットとして、PCI-Auto/ISA/PCI SLOT1/PCI SLOT2/PCI SLOT3/PCI SLOT4を指定できます。
PCI-Auto(出荷時設定)のまま変更しないでください。

Primary IDE INT#/Scondary IDE INT#

PCI IDEカードが使用しているPCI割り込みレベルを表示します。



LOAD SETUP DEFAULTS

セットアップデフォルト値を読み込みます。システムの環境に対して最適化された状態に設定されています。

現在の設定値は一部破棄され、セットアップデフォルト値に戻ります。

注意）これを行うと他に入力したパラメータも一部セット／リセットされます。

SUPERVISOR PASSWORD／USER PASSWORD

パスワードの設定を行います。

通常は使用しません。変更しないでください。

IDE HDD AUTO DETECTION

接続されているIDE HDDを検出しBIOSの設定に必要なHDDの情報を表示します。

IDE HDD AUTO DETECTIONを選択すると、HDDを調べ、検出した内容を表示します。

```
Do you accept this drive X: (Y/N)?
```

Y キーを入力して Enter キーを押すと、検出結果は保存され、システムは他のHDDを検出しはじめます。

Esc キーを押すと、システムは他のHDDを検出しはじめます。

HDD LOW LEVEL FORMAT

HDDを物理フォーマットします。
通常このメニューを使用する必要はありません。

- 実行するとHDDの内容はすべて破棄されます。
- PC-98シリーズでフォーマットされたHDDをDOS/V機でシステムディスクとして使用できるようにします。
- 本来はHDDの不良セクタを検出し、補うために使用します。
- LOW LEVEL FORMATの後、各OSでのフォーマットを行ってください。

```
Hard disk Low-level-format                          BAD TRACKS TABLE
SELECT DRIVE                                        NO. CYLS HEAD
BAD TRACK LIST
PREFORMAT

Current select drive is : C

DRICVE : C    CYLINDER : 0    HEAD : 0
```

		CYLINDERS	HEADS	SECTORS	PRECOMP	LANDZONE
Drive C :	40Mb	977	5	17	300	977
Drive D :	None	0	0	0	0	0

Up/Down-select item   Enter-Accept   ESC-exit/Abort
Copyright (c) Award Software, Inc. 1992 All Rights Reserved



SAVE & EXIT SETUP

F10キーを押した場合と同じです。
変更した設定内容を保存し、SETUPを終了します。
確認のメッセージが表示されますので、保存するときにはHomeキーを押してください。
新しい設定内容でシステムが起動します。
保存しないときには、Deleteキーを押してください。
メインメニューから次のEXIT WITHOUT SAVINGを選択してください。

EXIT WITHOUT SAVING

Esc キーを押した場合と同じです。

変更した設定内容を保存せずに、SETUPを終了します。

確認のメッセージが表示されますので、保存しないときには Y キーを押してください。

以前の設定内容でシステムが起動します。

6.資料



仕様

最新の情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ(http://www.melcoinc.co.jp/)をご参照ください。

本体

CPU	237pin ZIF AMD AM5x86-P75(133MHz)×1(その他対応CPU AMD486DX4-100/120)	SOCKET3
メモリ	SIMMスロット 対応メモリ	72pin×2(最大64MB)1枚単位で増設可能(高さ25.4mm(1インチ)以下) 4M/8M/16M/32M(パリティなし)
外部キャッシュ	なし	
チップセット	SIS 85C496 ＋ 85C497	
拡張スロット	ISA	ハーフサイズ×1(空) 162mm×107mm以下、部品実装高さ11mm以下 カード用電源 5V:1A以下　12V:200mA以下 -5V:50mA以下　-12V:100mA以下
ビデオ	コントローラ　86CM65(Aurora64V+ S3製) ビデオメモリ　2MB 解像度 640×480 /16色(VGA)/256色/65536色/ 800×600 /256色/65536色/ 1024×768 /256色/65536色(LCD併用時、仮想スクリーン動作) 1280×1024/256色(LCD併用時、仮想スクリーン動作)	
FDD	3.5" 2モード	×1
HDD	3.5" IDE	×1(内蔵可)

資料


外部 インターフェース	キーボード	PS/2		×1
	マウス	PS/2		×1
	LCD	15Pin	D-Subオス	×1
	CRT	15Pin	D-Subメス	×1
	シリアルポート	9Pin	D-Sub	×2
		(ボーレート最大115200bps)		
	パラレルポート	25Pin	D-Sub	×1
	LAN	10BASE-T		×1
電源	入力　3極インレット　AC100V　50/60Hz 出力　3極アウトレット　AC100V　max1A(スイッチ連動)			
ケース外形寸法	290(W)×220(D)×54(H)			
使用温度条件	10～35℃			

LCD

パネルサイズ	11.3インチ	12.1インチ
パネルタイプ	DSTN	TFT
解像度	800×600ドット(SVGA)	800×600ドット(SVGA)
画素ピッチ	縦横0.2865mm	縦横0.306mm
表示面積	229.2×171.9mm	244.8×183.6mm
コントラスト	25:1	150:1
視野角度	上下40°左右+25°～-25°	上20°下45°左右+50°～-50°
輝度	70cd/㎡	70cd/㎡
応答速度	270ms	40ms
コネクタ	D-sub15pin	D-sub15pin
外形寸法	320(W)×270(H)×45(D)mm	320(W)×270(H)×45(D)mm
重量	約1.9kg(ケーブル含まず)	約1.8kg(ケーブル含まず)
消費電力	約15W	約15W
電源	パソコン本体より給電	パソコン本体より給電

キーボード



注 意

この装置は、第２種情報装置（住宅地域または、その隣接した地域において使用されるべき情報装置）で住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）基準に適合しております。しかし、本装置をラジオ・テレビジョン受信機に近接してご使用になると、受信障害の原因となることがあります。

種類	DOS/V標準 Windows95対応109キーボード	DOS/V標準小型 Windows95対応109キーボード
ストローク	3.8±0.5mm	1.5±0.3mm
寿命	1000万回以上	200万回以上
操作力	55± 25g	60±20g

マウス

コネクタ形状		PS/2
分解能		400dpi
ボタン数		3個
寿命	走行距離	160km
	ボタン	100万回

資料



トラブルシューティング

起こりうるトラブルと対処方法を記載しました。故障と判断する前に、以下の事項を確認してください。

Windows95に関するトラブルについては、「3.起動とセットアップ」の「データとシステムの取り扱い」(P.35)にトラブルと対処方法を掲載していますので、参照してください。

【症状】 画面に何も表示されない

【原因】
・ディスプレイのケーブルが正しく接続されていないことが考えられます。（→対応①）
・LCDの輝度またはコントラストが最も暗い状態になっていることが考えられます。（→対応②）
・LCDのバックライトがOFFになっている可能性があります。（→対応③）
・ジャンパスイッチのLCD設定が間違っている可能性があります。（→対応④）

【対応】
①パソコンのLCDコネクタとLCD、またはCRTコネクタとCRTを正しく接続してください。
②LCDの輝度またはコントラストを正しく調整してください。
③LCDのバックライトスイッチを押してみてください。
④本書ジャンパスイッチの設定をご覧になり、ジャンパスイッチの設定をご使用のLCDに合わせてください。

【症状】 LCDには表示されるがCRTには表示されない。（またはその逆）

【原因】
・Windows95の場合、画面のプロパティで片方を表示しない設定にしている。
・Windows3.1の場合、コントロールパネルのS3 Monitor Selectionで片方を表示しない設定にしている。

【対応】 本書画面の設定の項をご覧になり正しく設定してください。

【症状】 マルチディスプレイが使用できない。
同じ画面が表示される。

【原因】
・画面のプロパティでDuo View Optionがチェックされていないことが考えられます。（→対応①）
・Windows3.1で使用していることが考えられます。（→対応②）

【対応】
①本書、ディスプレイのセットアップの画面の設定の項をご覧になり、Duo View Optionをチェックしてください。
② Windows3.1ではマルチディスプレイはサポートされていません。

【症状】　画面表示が640×480ドットで起動した。

【原因】　Windows95がsafeモードで起動しています。

【対応】　以下の手順で、画面解像度を600×800ドットに設定しなおしてください。



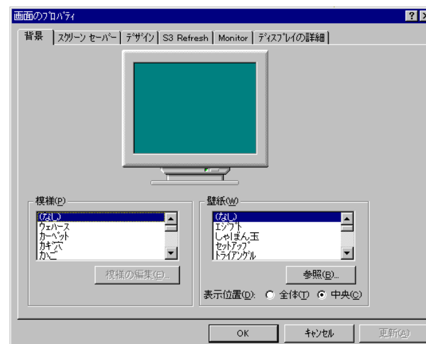
① **スタートボタンをクリックし、スタートメニューの［設定］－［コントロールパネル］をクリックします。**

コントロールパネルダイアログが表示されます。



② **［画面］のアイコンをダブルクリックします。**

画面のプロパティが表示されます。



③ **［ディスプレイの詳細］タブをクリックします。**



資料

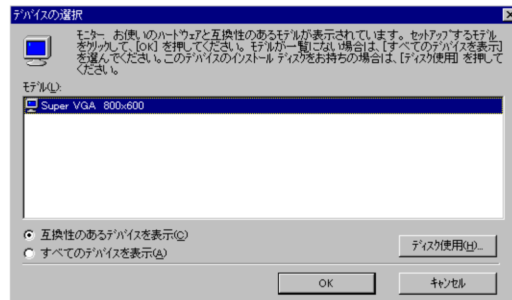

④ [詳細プロパティ(A)]をクリックします。

[ディスプレイの詳細プロパティ]が表示されます。

⑤ [モニター]のタブをクリックします。

⑥ [変更(C)]ボタンをクリックします。

デバイスの選択ダイアログが表示されます。



⑦ 「すべてのデバイスを表示(A)]を選択します。

⑧ 「Super VGA 800×600」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

[ディスプレイの詳細]プロパティに戻ります。

⑨ [更新]ボタンをクリックします。

⑩ [リフレッシュレート　ディスプレイのリフレッシュレートを調整します]というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。

⑪ 「ディスプレイのリフレッシュレートが変更されました。この設定を保存しますか?」というメッセージが表示されます。[はい]をクリックします。

⑫ [ディスプレイの詳細]プロパティに戻ります。[OK]をクリックします。

⑬ [デスクトップ領域]を800×600に合わせます。

⑭ [更新]ボタンをクリックします。

⑮ 「ディスプレイの設定を変更します...]のメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。

⑯ 「この設定を保存しますか?」というメッセージが表示されます。[はい]をクリックします。

[OK]ボタンをクリックし、「画面プロパティ」ダイアログを閉じます。

【症状】	ハードディスクが認識されない
【原因】	・IDEケーブルの接触不良が考えられます。 ・BIOSの設定とHDDの設定が異なっている可能性があります。
【対応】	①次の手順で、IDEケーブルを装着し直してください。 ・電源スイッチをOFFにし、HDDに接続されているIDEケーブルを確認してください。 ・BIOSの設定で、IDE HDD AUTO DETECTIONを実行する。 ②次の手順で、BIOSの設定を実行してください。 1.パソコンをリセットし、BIOSの設定でPrimary IDE(Master/Slave) をAUTOにする。 2.パソコンの電源を入れ直す。 上記②の方法でも認識されないときは、BIOS設定のIDE HDD AUTO DETECTIONを試してみてください。
【症状】	マウスがスムーズに動作しない（スキップするなど）
【原因】	シリアルマウスをCOM2ポートに接続している可能性があります。
【対応】	シリアルマウスを使用する場合は、COM1ポートに接続します。 COM1ポートに接続し直してください。
【症状】	シリアルマウスが認識されない
【原因】	・COM1コネクタの接触不良、はずれていることが考えられます。 ・Windowsでマウスドライバが正しく設定されていない。
【対応】	①COM1に正しく接続してください。 ②Windows3.1では「マイクロソフトマウス」、Windows95では「スタンダードシリアルマウス」をそれぞれ設定してください。
【症状】	電源を入れると、「ピーッ、ピーッ」と音がし、起動しない
【原因】	メモリの接触不良が考えられます。
【対応】	パソコンの電源をOFFにし、メモリを正しく装着してください。
【症状】	起動時に以下のメッセージが表示される。 DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ANYKEY または DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
【原因】	OSのシステムがないときに表示されます。またはシステムディスクでないフロッピーディスクを入れたままになっています。
【対応】	システムをインストールしてください。またはOSのシステムが入ったフロッピーディスクをセットしてキーを押してください。



【症状】　起動時に「KEYBOARD ERROR OR ON KEYBOARD」と表示される。

【原因】　キーボードが正常に認識されていません。

【対応】　キーボードコネクタの差し込みがゆるくなっていないかどうか確認してください。

【症状】　起動時に「FLOPPY DISK FAILED(40)」と表示される。

【原因】　フロッピードライブが正常に認識されていません。

【対応】

・フロッピードライブケーブルが抜けかかっていないかどうか確認してください。

・BIOS設定が使用しているディスクドライブに合っているか確認してください。

STANDARD CMOS Setup MenuのFDDでAが1.44 3.5inch、BはNONEです。

【症状】　キーボードから正しく入力できない。「＋」が「：」になる等。

【原因】　キーボードドライバが正しくありません。

【対応】

・Windows95では、ミニキーボード（KMV-）、標準キーボードは、106日本語（A01）キーボード（Ctrl＋英数）ドライバを使用します。次の方法でドライバを確認してください。

ドライバは、キーボードのプロパティ（［コントロールパネル］-［キーボード］）で確認できます。



① ［コントロールパネル］ウィンドウを開き、［キーボード］アイコンをクリックしてください。



② ［情報］のタブをクリックします。

③ ［106日本語（A01）キーボード（Ctrl＋英数）］になっていることを確認してください。



④ キーボードの種類が間違っているときは、［変更（C）］ボタンをクリックし、［すべてのデバイスを表示］のオプションボタンを選択して、［106日本語（A01）キーボード（Ctrl＋英数）］を選択し直してください。

⑤ **[OK]ボタンをクリックしてください。**

デバイスの選択画面に戻ります。

⑥ **[閉じる]ボタンを押してください。**

[キーボードのプロパティ]に戻ります。

⑦ **「再起動しますか?」とメッセージが表示されたら、[はい(Y)]をクリックしてください。**

【症状】 BPC-Mシリーズでネットワークを使用していて、接続先が見えない。

【原因】 ・ネットワーク上の全コンピュータにアクセス可能になるには、多少時間がかかります。（→対応①）

・接続先のコンピュータ名がピリオド（.）を含む１５文字になっている可能性があります。（→対応②）

【対応】 ①しばらく待ってから F5 キーを押して最新の情報に更新してみてください。

②コンピュータ名からピリオド（.）を削除するか、ピリオドを含む１４文字までのコンピュータ名に変更してください。

資料



BIOS設定Q&A

BIOS設定でトラブルかな？　と思われる前に、以下をよくお読みになり参考にしてください。

Q　**BIOSの設定を変更しましたが、しばらくマシンを使わないうちに、設定が変わってしまいました。なぜでしょう。**

A　設定した内容は、バッテリでバックアップされたメモリ(CMOS)に保存されます。普段は、パソコン使用時に充電されるのですが、数年(3〜5年)放置すると、メモリの内容が消えてしまいます。その場合は、バッテリを交換し、再設定しなければなりません。

Q　**HDDのタイプを「AUTO」に設定すると、容量やシリンダ数が表示されません。**

A　正常です。故障ではありません。

Q　**BIOSの設定で、テンキーから入力できません。**

A　NumLockキーを押してNumロック状態にしてください。

Q　**BIOSを適当に変更してしまいました。どうすればよいのでしょうか？**

A

・セットアップの途中であれば、メインメニューから "EXIT WITHOUT SAVING"を選択し、一度メニューを終了してください。このときは、BIOSの設定を修正する前の状態でセットアップを中断できます。もし必要ならば再度設定を行うことができます。

・設定を登録してしまったら、CMOSセットアップユーティリティーのメニューから「LOAD SETUP DEFAULTS」を選択し、[Y]キー→[Enter]キーと操作します。普通の場合にこれでシステムは起動します。
起動することを確認したら、再びCMOSセットアップユーティリティーに入って、「STANDARD CMOS SETUP」を選択し、設定します。
もし、「LOAD SETUP DEFAULTS」を選択しても、システムが起動しないときは、「Load BIOS DEFAULTS」を選択実行し、同様の操作を実行してください。

Q　**COM2を切り離したいのですが、どうすればよいですか？**

A　CMOSセットアップユーティリティーから「INTEGRATED PERIPHERALS」を選択し、「ONBOARD Serial Port 2」のCOM2を「Disabled」に変更してください。

メルコパソコン教室のご案内

メルコパソコン教室(株式会社メルコテクノスクール主催)では、DOS/Vコンポーネントパソコンを教材とした各種パソコン教室を開催しております。これからパソコンを組み立てるのだが、一人で不安という方には、是非とも「DOS/Vパソコン組み立て体験教室」の受講をお勧めします。一人に1台のDOS/Vコンポーネントパソコンを用意。ベテラン講師が懇切丁寧に指導します。このほかにも、各種カリキュラムが続々登場します。詳しくは、以下へアクセスして下さい。

●お申し込み・お問い合わせ

株式会社メルコテクノスクール
〒460 名古屋市中区大須4—11—50 カミヤビル
TEL:052—251—7911 ／ FAX:052—249—2460

●FAX情報

FAXの電話機から**052—614—6911**へ電話して、ボックス番号**0803**を押して下さい。

●インターネットURL

http://www.melcoinc.co.jp/
または
http://www.melcoinc.com/

●パソコン通信

NIFTY-Serve [GO SMELCO]
PC-VAN [J MELCO]

資料


修理について

故障と思われる症状が発生した場合、マニュアルの関連するページを参照して設定・接続が正しく行われているかを確認してください。異常が回避されない場合は、下記要領でメルコ修理センターへ製品をご送付ください。

●製品送付先

〒457　名古屋市南区柴田本通4－15
（株）メルコ　修理センター宛
お預かりした修理品専用の窓口ですので、修理品に関するお問い合わせ以外は承っておりません。あらかじめご了承ください。

●ご送付いただくもの

・障害の発生する製品
・下記チェック項目について明記した資料
・保証書の原本

●ご送付の方法

宅配便など発送いただいた控えが残る方法でお送りください。
・郵送は固くお断りいたします
・送料は送り主様のご負担とさせていただきます
輸送中の事故につきましては弊社にて責任を負いかねますことをご了承ください

●修理費用

保証書に記載の保証期間であれば無償修理となります。（例外の詳細は、保証書をご覧ください）
・保証書の原本が添付されていない場合、有償となる場合がありますので、必ず添付してください。

●修理期間

・修理期間は弊社到着後、7日間程度（弊社営業日数）を予定しております。
・諸事情により14日間（弊社営業日数）以上かかる場合は、弊社より連絡いたします。

●トラブル発生時に連絡いただきたい事項

1．返送先お名前／住所／電話番号（内線）／FAX番号
2．平日昼間の連絡先お名前／住所／電話番号（内線）／FAX番号
3．修理対象のメルコ製品名
4．メルコ製品のハードウェアシリアルナンバー（14ケタ）
5．メルコ製品のソフトウェアシリアルナンバー
6．具体的な症状／エラーメッセージ
7．発生状況（初めから／ある日突然／環境をかえたら）
8．発生頻度（必ず／頻繁／時々／時間が経過するとなど）
9．コンピュータ（本体メーカ名／型番／シリアルナンバー）
10．ハードディスク（メーカ名／型番／シリアルナンバー）
11．ディスプレイ（メーカ名／型番／シリアルナンバー）
12．その他の周辺機器（メーカ名／型番／シリアルナンバー）
13．Windows/DOS（メーカ名／バージョン）
14．アプリケーション（ソフト名／メーカ名／バージョン）
（症状に依存性のある場合はその詳細を）
15．製品以外の添付品（付属ソフトなど）